

医-73-2(92)

ビルマ歯科大学に対する 医療協力実施調査団報告書

昭和48年4月

海外技術協力事業団

Overseas Technical Cooperation Agency

JICA LIBRARY



1016264[2]

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3. 16	104
登録No. 00613	90.7
	MC

は し が き

昨年7月、ビルマ国に対する医療協力の基本的な将来計画を策定するため、京都大学、東昇教授を団長とする医療協力基礎調査団が同国に派遣され、同国のニードの実態の調査並びに同国政府当局関係者との協議が行われた。その結果として、下記の二分野に対する医療協力が今後、同国に対して実施されることが基本的に決定された。

(1) 医学研究センターの設立

(2) 歯科大学及び同学付属、学校歯科看護婦養成校における教育の充実

上記(1)の協力については、無償協力によりセンターの建物が設立され、又、機材供与、専門家派遣、研修員受入等が技術協力に基づくプロジェクトベースにより実施されることになった。

(2)の協力については、コロンボプランによる技術協力に基き協力が遂行されることが基本的に決定されたが、同基礎調査団の調査結果を踏まえ、さらに、協力期間、機材供与、研修員受入等の具体的な協力内容の実施細目を決定するため、本年2月、東京医科歯科大学、林都志夫教授を団長とする歯科医療協力実施調査団が同国に派遣された。

以下は同調査団による報告書である。

この機会をかりて同実施調査団各位並びに同調査団派遣にご協力をいただいた関係機関の方々に対し心より感謝を申し上げますとともに、本事業の成功を祈ってやまないものである。

昭和48年4月

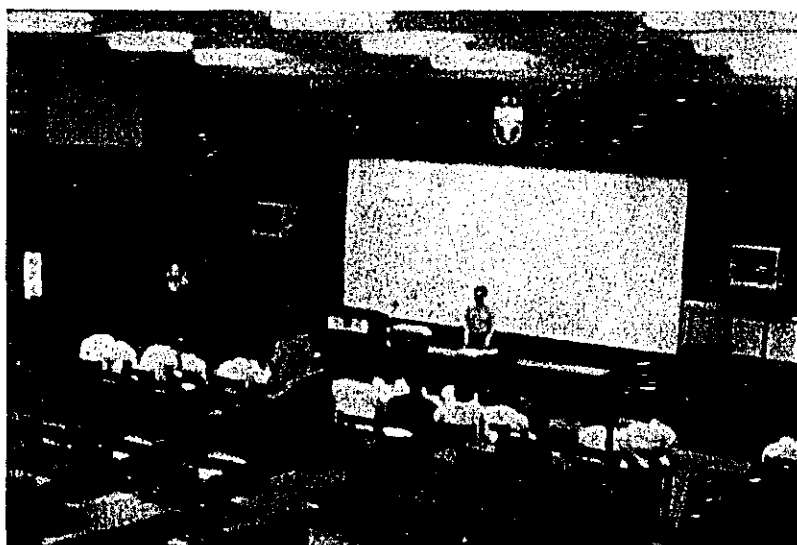
海外技術協力事業団

理事長 田 付 景 一

歯科大学



歯科大学における授業



学校歯科看護婦養成校の授業





歯科大学模型実習室



歯科大臨床実習室
ユニットは西独ツーマンス製



マンダレーのプライマリ
ヘルスセンター

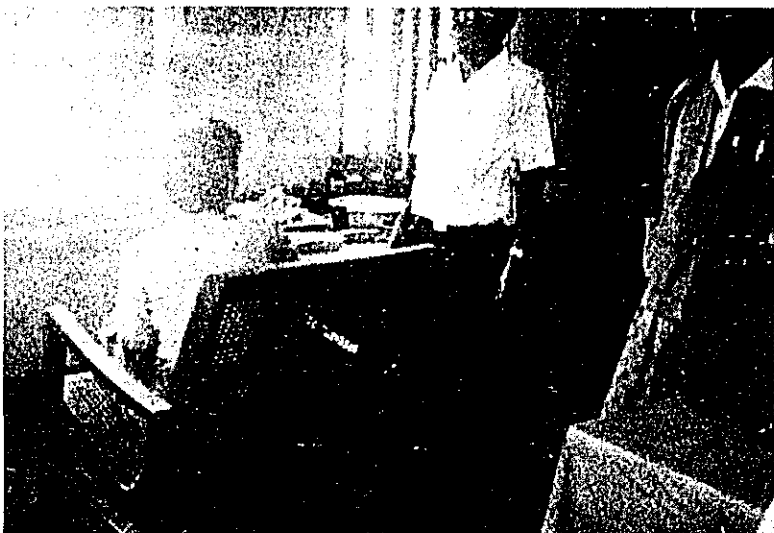
ペグー地区総合病院歯科
(ここだけが治療らしいこと
をしていた)

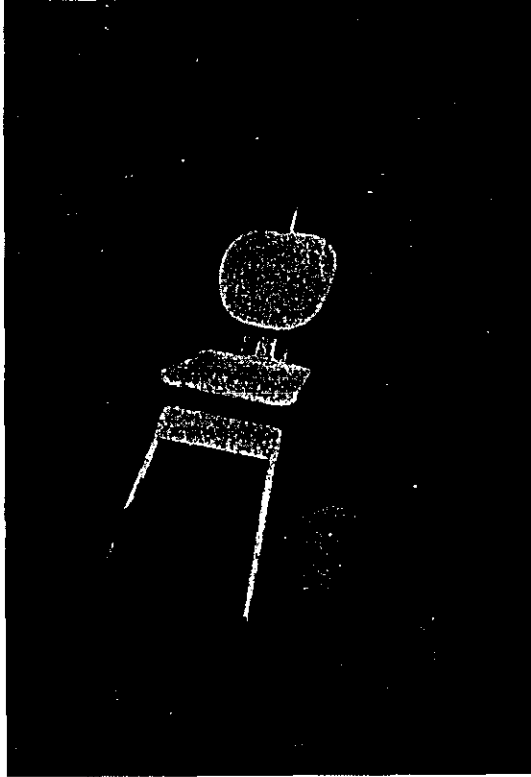


マンダレイヘルスセンターにて
小児を診察する林団長(中央)



マンダレイヘルスセンターの
歯科治療に使われている椅子





マンダレー総合病院歯科にい
まも働いている簡易治療椅子

目 次

I	調査団派遣までの経緯	1
1.	調査団の構成	4
2.	行動概要	5
3.	Record of Discussions	7
II	ビルマの歯科事情	12
1.	罹患状況	12
2.	歯科医療の現況	12
3.	歯科医療政策5カ年計画	14
III	ラングーン歯科大学	16
1.	概 況	16
2.	歯科大学授業課程	17
3.	口腔細菌学及び口腔病理学部門	18
4.	歯科大学の設備	20
5.	歯科大学の拡張計画	21
6.	学校歯科看護婦養成校	22
IV	ラングーン歯科大学における討議内容	30
1.	歯科大学および同附属教育施設に対する教育用資材の供与	30
2.	口腔病理学，口腔細菌学専門家派遣	34
3.	歯科補綴学の専門家の派遣要請	35
4.	研修員の日本受入	36
V	調査団の意見	37
	参 考 資 料	41

I 本実施調査団派遣までの経緯

我国に対しビルマ国より歯科協力の要請が始めてなされたのは、昭和41年8月同国に吉江勝保参議院議員を団長とする医療協力調査団が派遣された際である。当時、ビルマ側は、同調査団に対し、

- (1) ウィルス病の調査並びにウィルス病の研究
- (2) トラコーマの研究
- (3) 歯科分野に対する協力

の三分野の協力を要請した。

日本側は検討の結果、その時点では、(1)に対して協力を実施することを決定し、昭和47年までに優秀な協力業績があげられた。又、(2)に対しても昭和45年より協力が実施され画期的な協力効果が示された。これら二部門の協力については今後は医学研究センタープロジェクトとして拡大発展し遂行されていくことになっている。

(3)の歯科協力については、当時は協力分野としてはとりあげなかったわけであるが、昭和42年1月、再度日本側に協力要請越してきた。協力内容は下記の如くである。

- 1) 歯科大学に対する口腔病理学、口腔細菌学専門家の派遣
- 2) 歯科機材の供与

この段階においても日本側は、(1)の協力を我国の行う医療協力プロジェクトとしてプライオリティをつけそれに専念する意図から取りあげなかった。

さらに昭和47年3月に至って、ビルマ側より歯科協力の要請を督促越してきた。同要請の背景の要旨は下記の如くである。

ビルマには歯科医の養成機関としては、ラングーンに歯科大学(6年コース、1学年約50名)が1校あるのみで歯科医の絶対的不足を来たしており、特に地方においては歯科診療、治療はほとんど行なわれていないのが実情である。このような実情の解決のための一措置として、ビルマ政府は47年10月より同大学の付属機関として「学校歯科看護婦養成校」(3年コース、1学年約30名)を設置し歯科診察及び簡易な治療のできる看護婦を養成し、地方の小中学校に配属し、児童の歯病の診断治療に当らしめることとしている。この「学校歯科看護婦養成校」における実習及び主たる小中学校における歯科治療のため、

Dental Unit, Dental Chair 及びその他の instrument 等の歯科機材の供与を要請するとともに、41年より要請している口腔病理、細菌の専門家の派遣も併せて願います。

以上の要請を踏まえ、本歯科協力実施の妥当性を検討することをも含めて、47年7月基礎調査団が派遣され、同国の基礎的歯科医療事情調査及び同国関係者との打合せが行われたわけである。

ビルマ側は同調査団に対し再度、歯科協力の要請を強く表明したが、機材供与については、当初ビルマ側は、地方歯科医療事情改善のための5カ年計画（1973-74～1977-78）の一環として歯科センターを設置し、それに設置するための歯科機材供与を要請した。

これに対し、同調査団は、技術協力という観点からみて、供与機材を分散する方法は好ましくなく、あくまで専門家派遣と密着したものでなければならない旨、ビルマ側に表明した。この点につき、ビルマ側はコロンボプランに基づく技術協力の方式を了解し、供与機材はラングーンの歯科大学に一カ所にまとめて設置され、もっぱら同年10月より発足することになっている「学校歯科看護婦養成校」における教育充実のため使用されることになった。

そして歯科協力対象も明確になり、すなわち、ラングーンの歯科大学の口腔病理・細菌学部門及び学校歯科看護婦養成校の二つを協力対象として、教育用の機材供与、専門家の派遣、研修員の受入れ等を有機的に組み合わせたプロジェクトベースとして取りあげることが、同基礎調査団の調査結果に基づいて基本的に決定されたわけである。

学校歯科看護婦養成校に対する機材供与については、同校が47年10月より発足することになっているため、機材供与も緊急性を要し、とりあえず47年度予算にて16台分のDental Unit, Dental Chair 及びその他の付属機器を購送することになった。同校に対する協力期間を暫定的に3年間と設定し、（Dental Unit, Dental Chair については3年間で50台）47年度供与分はその3分の1に当るわけである。同供与機材の内容は、47年3月、ビルマ側より歯科協力要請の公信に添付された提出越された供与要請機材リスト及び同基礎調査団の御意見を参照して決定された。

以上のように同基礎調査団の調査結果により本件歯科協力の輪郭も明確にな

ったので、具体的な実施細目内容を決定するため、又さらに同国歯科医療事情の詳細な実態を把握するため、本件実施調査団派遣の運びになったものである。

尚本調査団とビルマ側関係者との打合せ事項については合意議事録 (Record of Discussions) としてまとめ、締結した。

Ⅱ 調査団の構成

	氏名	所属先
団長	林 都志夫	東京医科歯科大学歯学部教授
団員	堀川 高大	東京医科歯科大学歯学部教授
	佐藤 嘉宏	O T C A 医療協力部 職員

Ⅲ 調 査 日 程

(1973) 月 日	曜 日	行 動 概 要
2 19	(月)	東京発, Bangkok 着・(Bangkok 泊)
2 20	(火)	Bangkok の歯科大学見学, Bangkok 発, Rangoon 着
2 21	(水)	10:00 日本大使館訪問, 打合せ 11:30 保健省副大臣表敬訪問 12:00 教育省副大臣表敬訪問 14:00 Rangoon General Hospital の歯科部門 外科部門視察 19:00 保健省副大臣主催の Dinner に出席
2 22	(木)	9:00 歯科大学訪問, 施設全般の視察 本プロジェクト打合せ 14:00 歯科大学訪問, 打合せ
2 23	(金)	8:00 Rangoon 発 10:30 Mandalay 着 14:00 Institute of Medicine, Mandalay 視察 14:30 Mandalay General Hospital 視察 15:00 Health Center, 2カ所視察 (Mandalay 泊)
2 24	(土)	13:00 Mandalay 発 14:00 Pagan 着 20:00 同行した歯科大学副学長とプロジェクトに関 して意見交換 (Pagan 泊)
2 25	(日)	10:30 Pagan の Civil Hospital 視察 13:00 Pagan 発 16:00 Rangoon 帰着
2 26	(月)	9:30 Institute of Medicine(I) 視察

(1973) 月 日	曜 日	行 動 概 要
2 26	(月)	11:00 Rangoon の Health Center, 2カ所視察 14:00 WHOのOFFICE訪問, OFFICEの Representativeより情報聴取 14:30 歯科大学訪問, 打合せ
2 27	(火)	7:30 Rangoon 発 9:00 Pegu 着, Pegu の Civil Hospital 視察 12:30 Pegu 発 14:30 Rangoon 帰着, 資料整理
2 28	(水)	9:00 歯科大学訪問, 打合せ 14:00 保健大臣訪問 17:00 日本大使館にて Record of Discussions に関する打合せ
3 1	(木)	9:00 歯科大学訪問, 打合せ 14:00 Institute of Medicine(I) 訪問, 病理学部門の教授陣と意見交換 15:30 Rangoon の港湾見学 17:00 日本大使館主催のDinnerに出席 ビルマ側保健大臣を始めとして2.0名程度出席
3 2	(金)	(ビルマの祝祭日), 資料整理
3 3	(土)	10:00 保健副大臣室にて, R. D. 署名, 交換 13:30 Rangoon 発 14:30 Sandway 着 19:00 同行した保健省公衆衛生局次長より, ビルマ 歯科衛生事情について情報聴取 (Sandway 泊)
3 4	(日)	10:00 Sandway の Civil Hospital 視察 17:00 Sandway 発 18:00 Rangoon 帰着
3 5	(月)	Rangoon 出発, 東京着.

RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE MEDICAL COOPERATION SURVEY
TEAM OF THE GOVERNMENT OF JAPAN AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE UNION OF BURMA REGARDING TECHNICAL
COOPERATION IN THE FIELD OF DENTAL MEDICINE.

RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE MEDICAL COOPERATION SURVEY TEAM OF THE GOVERNMENT OF JAPAN AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE UNION OF BURMA REGARDING TECHNICAL COOPERATION IN THE FIELD OF DENTAL MEDICINE.

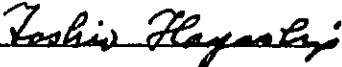
Both Parties, viz: the Medical Cooperation Survey Team of the Government of Japan and the authorities concerned of the Government of the Union of Burma, have reached the following understanding through their discussions:

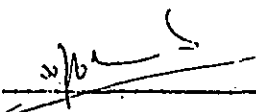
1. Medical cooperation between the Government of Japan and the Government of the Union of Burma in the field of dental medicine shall be promoted with main emphasis on dental education at the College of Dental Medicine and the Dental Auxiliary School, Rangoon.
2. The period of cooperation shall be three (3) years, starting from the Japanese fiscal year 1972, viz: April 1st, 1972 - March 31st, 1975.
3. In accordance with the laws and regulations in force in Japan and within annual budgetary appropriations, Japanese cooperation shall be extended within the framework of Colombo Plan technical cooperation in the form of dispatch of experts, provision of training facilities in Japan and supply of equipment, upon receipt of Application Forms A.1, A.2, A.3 and A.4 from the Government of the Union of Burma.
4. The cooperation on the part of Japanese Government shall be carried out in the following way:
 - a. Dispatch of Japanese experts in the field of Oral Pathology and Oral Bacteriology to the College of Dental Medicine.
 - b. Acceptance of Burmese personnel for training in Japan.
 - c. Provision of dental equipment necessary for the above-mentioned cooperation scheme.
As an initial supply, the equipment as listed in the Appendix shall be provided.

5. The Japanese experts shall be granted in Burma privileges, exemptions and benefits no less favourable than those granted to the experts of the other countries under the Colombo Plan.
6. The equipment to be supplied by the Government of Japan shall become the property of the Government of the Union of Burma upon being delivered c.i.f. at the Port of Rangoon, or the Airport of Rangoon to the Burmese authorities concerned. Therefore, (a) custom duties, internal taxes and other similar charges, if any, imposed in respect of the equipment and (b) local expenses necessary for the transportation, installation, operation and maintenance of the equipment shall be borne by the Government of the Union of Burma.
7. The number of Japanese experts to be sent by the Government of Japan, detailed arrangements for the training of Burmese personnel in Japan and equipment to be supplied under this co-operation scheme will be determined by mutual consultation.

The matters recorded herein shall be implemented after they are duly approved by the respective Governments.

Rangoon, the 3rd Day of March, 1973.


Dr. Toshio Hayashi
Head of the Japanese Medical
Survey Team


Dr. Thein Aung
Deputy Minister for Health
Government of the Union of
Burma

APPENDIX

THE LIST OF EQUIPMENT

Item No.	Description	Q'ty	Unit Price(Yen)
1.	Wall Mounting X-ray Unit	2	64,000
2.	Air Bearing Handpiece Unit	2	59,000
3.	Dental Air Compressor	2	94,900
4.	Air Bearing Handpiece Unit, Mobile type	2	136,500
5.	Mobile type Dental Evacuator	2	50,000
6.	Electric Sterilizer	4	23,750
7.	High Pressured Steam Sterilizer'	2	68,000
8.	Foot Pump Chair	10	101,400
9.	Dental Unit (1)	8	143,000
10.	Dental Unit (2)	8	507,000
11.	Compressor for Air Bearing Handpiece	8	94,900
12.	Compressor for Dental Unit (1)	8	83,200
13.	Ultrasonic Scaling Machine	1	28,000
14.	Set of Extracting Forceps'	4	28,100
15.	Set of Extracting Forceps for Children	4	9,450
16.	Set of 10 pieces of Elevators	4	4,300
17.	Set of two Periosteal Elevators	4	1,500
18.	Set of 5 pieces Curettes	4	2,300
19.	Set of 24 pieces of Cutting Instruments, one Surgical Dressing Scissors, one Wooden Mallet, two Gum Scissors and two Lancets	4	8,000
20.	Set of one Haemostatic Forcep, two Instrument Trays (glass & metal), one doz. of 2cc Dental Syringe 36 dozs. of Syringe Needles (1/3, 1/4 & 1/5)	4	6,800
21.	Dental Steel Cabinet, Mobile type	4	27,000
22.	Film Viewer with Chart Board	2	3,900
23.	Set of three pieces of Bone Cutting Forceps, 3 of Root Tip Picks, 2 of Bone Chisels, 2 of Bone Files and 2 of Gum Raspatorium	4	8,400
24.	Set of Orthodontic Instruments, with articulator	2	8,800
25.	Set of Anesthesia materials	2	6,900
26.	Articulator	2	36,700
27.	Hemodynamometer	1	3,900
28.	Set of 9 pieces of F.G. Diamond Points, Nos.800	30	2,500
	Set of 14 pieces of F.G. Diamond Points, Nos.600	30	2,800
	Set of 4 pieces of F.G. Diamond Points, Nos.100	30	1,400

29.	Set of 22 pieces of Carbide Burs	30	3,900
30.	Set of 8 pieces of Steel Burs for Hand- piece	30	1,320
	Set of 2 pieces of Steel Burs for Hand- piece	30	440
	Set of 6 pieces of Steel Burs for Contra Angle	30	990
	Set of 2 pieces of Steel Burs for Contra Angle	30	440
31.	Set of 72 pieces of Engine Burs, assorted	30	3,430
32.	Dental Engine for 10,000 RPM, Mobile Stand type	2	29,250

GRAND TOTAL PRICE	10,390,000
-------------------	------------

Ⅱ ビルマの歯科事情

1 罹 患 状 況

ビルマの総人口は推定2,820万であるが、その90%以上はなんらかの歯科疾患にかかっていることが抽出調査の結果として報告されている。その主なものをあげると、

歯牙う蝕 85%

歯周病(歯槽膿漏症) 70%

であるが、歯科医不足のため、これら疾患の大部分は処置されないまま放置されている。したがって病状は進行し、歯根膿瘍、蜂窩織炎、副鼻腔炎、骨髄炎等の歯原性疾患および口腔に原発巣を持つ全身へのいわゆる病巣感染症、敗血症が多い。また無資格にして歯科治療を業とする者(後述)による不適正な歯科処置の悪影響もかなりあるものとみられている。

その他、不正咬合保有者は高率(63.5%)にあり、兎唇口蓋裂患者も国際統計(1:600~1:1,200)に比べると出現頻度が高く(1:600~750)、顎顔面領域の悪性腫瘍は欧州にみられるよりも若い年齢時に発病する傾向がみられる。

われわれが一部の病院、保健センターを視察した結果でも、保存可能な歯が、治療機材が整わないために、不当に抜去されていた。辛直にいうならば、この国における歯科治療とは抜歯を意味するといっても過言ではない。そのため、欠損歯率が高く、5歯につき1歯は欠如している。また3歯につき2歯は歯周病にかかっている。歯石沈着が多く、口腔清掃状態は不良である。

以上の通り、ビルマにおける歯科事情はきわめて急迫しているからともかくも手のつけられるところから歯科医療を施し、いっぼう将来を見越した抜本的な歯科医療対策がたてられなければならない。

2 歯科医療の現況

ビルマにおける歯科医療は1950年以前には不在であった。というのは、それまでの歯科医療は全く民間の手に委ねられて、歯科医師の登録制

度はなく、まして、国による歯科医師の養成計画、配置計画などは皆無であったからである。

このようなことは、ビルマに限らず、隣接の発展途上国にもあった。しかし、これらの国では、比較的早い時期に施策が打たれ、すでにかんがりの成果をあげている。たまたまビルマだけが残っていたわけであるが、それは歯科医療に限ったことではなく、その他の政策面でもいえることで、それはこの国の特殊事情によるものであろう。

ともかくビルマの歯科医療は最近まで、今も、歯科医師の資格を持たない中国人牙師 tooth fixer の手によってまかなわれていた。この者は、父祖・親類から家伝的に歯の治療術を教えられ、歯科治療を生業としている者で正規の教育訓練を受けていない。したがって抜歯と簡単な義歯の製作がその仕事の内容であって、口腔治療、充填等の歯科治療といえるものは手をつけられなかった。もちろん彼らのうちの積極的な者は、進んで隣国印度等に留学し、歯科医学を修めて帰ったのもあるが、その数はほとんどとりに足らなかった。また、1960～1964年には、8回にわたり牙師の一部に対し6カ月間の講習を行ない、所定の試験を通過した者に開業免許証 Certificate of Dental Practice を与えたこともあるが、これも僅かに319名にすぎなかった。

そして1950年に、国としての歯科医療政策が始まったというわけだが、それも本格的といえるものではなく、僅かに印度人歯科医8人を国として雇い、ラングーン総合病院外来で小児に対する歯科治療を担当させたにすぎない。しかし、これを契機として1964年に新政府の手によってラングーンに国立歯科大学 Rangoon College of Dental Medicine が設置され、ようやく積極的な歯科医療政策が開始された。

現在、この国の有資格歯科医 (DDS) の数は、近くラングーン歯科大学を卒業する者を含めて、150名程度である。この中には、外国の歯科大学を卒業して資格を得た者が含まれている。

歯科医はすべて保健省の管理下に入り、国家公務員として、総合病院附属の歯科センター、地区の Primary Health Centre、都市所在の School Health Centre に勤務している。なお牙師出身で開業免許を得

た者および一部の登録歯科医は開業しているが、これらの者も週2～3日間 part - timer として地域の Maternity and Child Hospital , Primary Health Centre 等に勤務することを義務づけられている。

しかし、これらの公共歯科診療施設の設備は全く不備で、本調査団が地区総合病院歯科5カ所、Primary Health Centre 5カ所、医科大学附属歯科センター2カ所を視察したところでは、都市の中心に近い Primary Health Centre 内の歯科では、まがりなりにも歯科用ユニット、治療椅子を持っていたが、その他のところでは、ユニット類がないか、あっても故障のため使えないものであった。ユニット類がない所では簡易歯科治療椅子または木製椅子に安頭台をつけたものを使用していた。そして、治療卓上には、抜歯鉗子、抜歯挺子、局所麻酔用注射器、同麻酔薬、消毒棉花、少量の薬品のみがあって、口腔治療、充填、補綴のための器材はほとんど見当らなかった。それでも受診患者は多く、1診療所当り1日50～70名をまかなわなければならない。Part time で週3日、半日勤務のところでも、それだけの患者が殺到する。したがって、事実上、抜歯しかできないことになる。唯一の救いは、抜歯用の浸潤麻酔薬のみはラングーン製のものが、ほぼ所要量を充たして補給されていたことである。

われわれが、これらの勤務歯科医に、現在何を最も希望するかを尋ねたところ、彼らは一様に、使える電気エンジンが欲しい、切削用のバーが欲しい、充填材料が欲しいと答えていた。しかし彼らは、歯科医療担当者としての責任を自覚し、旺盛な診療意欲を持っていた。この状態を損なうことなく持続させるためには、実情に即した抜本的な歯科医療政策がなければならない。

3 歯科医療政策5カ年計画について

上記の様な深刻なこの国の歯科医療事情に対処するには、積極的、抜本的な歯科医療政策でなければ間に合わない。

そこで政府は、1972年7月、歯科医療政策5カ年計画 Reorganization of Dental Health Service を立案した。

この計画は、この国の歯科保健サービスを組織化し、強力な歯科医療対

策を推し進めるための長期計画であるが、もともと1971年、W.H.O.から派遣されたSir Robert Bradlaw(英)氏の実地調査報告書および勧告を全面的にとり入れた形で作成されている。そして、とりあえず1973～'78の5カ年計画として、

歯科センター	250カ所
歯科技工所	4カ所
巡回診療設備	20カ所
歯科器械整備工場	2カ所

を設備することになっている。

この計画を実施するために先ず必要なのは診療要員の確保、養成であり、次に財政的基盤であるが、前者については、既に1972年度から学校歯科看護婦の養成を始めており、またラングーン歯科大学の拡張および学生定員の増加の計画がある。そして後者についてはUNICEFを通じて国際協力を申請しているが、本調査団が感じたところでは、日本よりの援助を強く期待しているようであった。また、次に述べるように、ラングーン歯科大学の拡張、学部学生のための専門教育、学校歯科看護婦養成のための設備、教育に関しては、専ら日本の協力を期待し、熱心に要請していた。これらのうち、

- 1) 学校歯科看護婦養成のための設備として、歯科用ユニット・椅子を主体とする教育用資材の供与、
- 2) 歯科大学学部および学校歯科看護婦養成所で講義および実習を担当するため、口腔病理および口腔微生物学(口腔細菌学)の専門家の派遣、
- 3) 歯科技術関係研修員の日本への受け入れ、

については、かねてより具体的な協力要請が日本側に提出されており、昨年8月、O.T.C.A.より派遣された基礎調査団の調査事項および本調査団の専門調査対象になっている。

■ ラングーン 歯科大学

1 概 況

1964年創立。ビルマにおける唯一の歯科大学であり、首都ラングーン市にある。教育省直轄の国立大学であるが、1973年9月よりは、医科大学と同様に、保健省の管轄下に入る。入学定員50名、修業年限7年ただし最終学年はインターン。

歯科大学の学期 (Academic Year)

月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	9/1			12/23	1/5			4/8	5/1			7/7	
	(1st term)			(2nd term)			(3rd term)						
				(講義のみ休み)			(講義のみ休み)			(講義、実習ともに休み)			
	(1st Semester)						(2nd Semester)						
							3月中旬 (前期試験)			7月第2週目 (終末試験)			

1971年、第1期・第2期生計36名、1972年に第3期生39名、1973年49名の卒業生が巣立ち、卒業生累計124名となる。

学生総数は350名であるが、第7年次の学生50名は校外にあって実地研修を受けている。

教員数は、いわゆる教養科目および医学関係基礎科目の教育をラングーン第1医科大学で行っているのので、医科大学との併任教官の数は明白でないが、歯科の基礎科目、専門科目を担当する専任教官を数えると、教授4、助教5、講師9、助手19名である。

本学には別に学校歯科看護婦養成所、Training School for the

School Dental Nurse（修業年限3年，入学定員20）と歯科技工士学校，School of Dental Technology（修業年限2年，入学定員10）が併設されている。

2 歯科大学授業課程について

毎学年度は9月1日に始まり，翌年8月31日に終る。各年度は前期および後期に分かれ，前期はさらに2期に細分される。

Premedical	1年次	} …… 18カ月
	2年次	
Preclinical	2年次	} …… 18カ月
	3年次	
Paraclinical	3年次	} …… 16カ月
	4年次	
Clinical	5年次	…… 12カ月
	6年次	…… 12カ月
Internship	7年次	…… 12カ月

以上のうち，Premedical および Preclinical の授業は，Rangoon College of Medicine I 校舎において，医科大学の教官によって行なわれる。したがって，医科大学校舎では，医学部学生に対する授業と歯学部学生に対する授業とが，併任教官によって，常に2部教授の形で行なわれていることになる。その際，歯学部では，一般基礎医学を教えた後，歯科領域の基礎が教えられる。例えば，一般解剖学を教えた後，口腔解剖学が授けられる。

このように，医学部基礎科目の教室は，医・歯の2部授業を受け持つばかりでなく，いわば専門領域をこえた歯科（口腔）基礎学を教えねばならないので，過重負担となっている。このようなことは，発展途上の歯科大学では，止むを得ないことではあろうが，速やかに改善されねばならない。

さて，臨床各科目の講義と実習はラングーン歯科大学で行なわれている。ただし，本調査団がみたところでは，ひとりの教授または助教授によって複数の臨床科目が兼担されているものが多い。その点，未分化の状態にあ

る。たとえば

講 座	担当科目
口腔外科学講座 (1 , 1 , 1 , 1)	口腔外科学 歯科麻酔学 歯科放射線学
口腔診断学講座 (0 , 1 , 0 , 2)	口腔診断学 口腔病理学 歯周病学
社会予防歯科学講座 (1 , 0 , 2 , 3)	社会歯科学 予防歯科学 公衆衛生学 歯科矯正学 小児歯科学
歯科保存学講座 (1 , 0 , 1 , 4)	歯内病法学 充填学 冠・橋補綴学
歯科補綴学講座 (1 , 0 , 2 , 0)	全部床義歯学 部分床義歯学

()内は教授，助教授，講師，助手の現員数

3 口腔細菌学及び口腔病理学部門について

Basic 口腔病理学，口腔細菌学の授業は，第1医科大学において，一般的な病理学，細菌学の講座の一部として，医科大学生と併せて歯科大学生に行われている。歯科大学生の場合は4年次にこの授業が行われている。そして5年次において，歯科大学で，Clinicalな面での口腔病理学，口腔細菌学の授業が行われている。しかしここにおいては，実習用の機械器具が不足かつ旧式であるため，もっぱら講義を主体として行われているだけである。（講座名はApplied Oral Pathology and Applied Oral Microbiology）このClinicalな口腔病理学，口腔細菌学という

のは、歯科の臨床各科において得られる材料について、病理学ならびに細菌学的に検討し、基礎の立場よりの確な診断に資することが目的であり、そして授業の面ではいわゆる日本の中央検査室とか臨床病理学室に相当する部門をベースとして、実験、実習指導、講義を学生に対して行うことである。しかしながら、実習用機材の欠如により、座学的知識を教授するだけの授業に終わっている。

次に実際の授業内容であるが、第1医科大学で行われている general な細菌学のカリキュラムを見ると、

1. 細菌学の歴史，顕微鏡の発達
2. 一般細菌学
3. 感染と宿主の抵抗
4. 免疫
5. 細菌学各論
6. 真菌学
7. ウイルス学
8. 寄生虫学
9. 口腔感染論

以上の9部門に分れ、夫々の授業は講義（55），実習（66），討論と総括（15），試験（5）からなる。（ ）内は授業時間数でその総計は140時間である。試験は3時間の筆記試験，2時間の実習試験と口腔についての口答試験からなり、最終試験の外に、適当な時期に中間試験を数回行なっている。実際の試験に立合う機会を得たが、隣同志は別々の内容からなる試験問題と細菌の標本を見る方法で行なわれており、やや手数のかかるものであり、厳格なものと云える。教授は成績の記入された学生の写真入り「カード」を持っており教育には極めて熱心の様に見受けられた。

以上の様に歯科大学の教育のうち基礎医学関係は第1医科大学でなされており、その授業内容、試験制度、時間数を欧米、日本などと比較しても、けっして見劣りするものではない。唯、一番困ることは前述したように、歯科大学に研究検査設備が全然ないことである。講義は出来るけれども、

実習に必要である機械器具，消耗品等が極度に不足しており，これでは十分な授業は不可能であろう。第1医科大学においても細菌学や病理学に必要な基礎的な機械器具さえも甚だ不足している。（マンドレーの医科大学ではこの点が極端で医科大学の形態をなしていない）学生や教授は大変熱心な様に見られるが，知識は豊富に所有していても，病症の診断や治療を理論的に正しく行なうことは不可能である。細菌学では培養をやり，免疫血清をつくり，病理学では組織標本をつくる様な最も初歩的操作が不可能の現状であるから，これらを可能にするため，歯科大学に対し必要な実習用資材の供給が早急になされねばならない。また学生の授業には教科書として例えば Burnet & Scherp 著 *Oral microbiology and infections diseases* が細菌学では使用されて充分であるが，学術雑誌は全然見当らず，文献を見ることは出来ない状態であり，細菌学や病理学の研究分野ないし材料はビルマ全国に亘り，豊富に存在するが，実際に研究をやり，論文を書く段になると，たちまちストップすることは明らかである。最少限度でも学術雑誌類の整備がなされねばならない。

その他の所見として，各臨床講座とも，教官数が非常に少ないことが目立つ。とくに歯科補綴学では，僅かに3名の教官で講義，模型実習，臨床実習，診療を受け持っているようであるが，これでは満足な教育効果があげられない。この点に関し，学長 Aung Than 氏は，われわれ調査団に対し，歯科補綴学の教育要員として専門家派遣方のあっせんを強く希望していた。

4 歯科大学の設備について

ラングーン歯科大学の校舎はラングーン総合病院の建物の一部を使用している。したがって狭隘であり，各室の構造も適切でない。電気・水道設備はあるが，ガス供給設備は働いていない（都市ガスがないから，病院としてプロパンガスのセントラルサプライシステムをとることにしているが，一部に限られているとのことである。）。

歯科ユニット類は現在40組あり，いずれも西独シーメンス製のものである。すでにやや老朽化しているが，専門技術者の手で良く保守されてい

た。

5 歯科大学の拡張計画について

歯科医療政策5カ年計画の一環として、政府は1972～'73会計年度において、ラングーン歯科大学の拡張計画を承認し、この年度から1976年までの連年予算で工事を行なうことを決定した。この計画には校舎の新築と、それが完成した時に学部入学定員を100名にすることおよび学校歯科看護婦養成所入学定員を50名にすることが含まれている。

校舎の新築計画は次の通りである。

1. 1972-73 主校舎臨床棟基礎工事
2. 1973-74 3階建臨床棟建築工事
3. 1974-75 ガス、水道、電気その他の内装工事完成
4. 1975-76 新校舎落成、入学定員増等開始

名称……… Institute of Dental Medicine and Hospital,
Rangoon.

なお新校舎のための敷地は、道路を隔てて隣接地に用意されている。設計図も細部にわたってでき上っており、われわれもそれを受領してきた。その際、歯科大学長よりの伝言として、「新校舎に備えつけるユニット等について、いずれご協力をお願いしたいので、よろしく」とのあいさつがあった。また保健大臣と会談した際にも、大臣から「建物については予算が確定しているが(100 million kat)、中身についてはどうしようもない。その点、お帰りにになったら、関係当局によろしくご助言願いたい。」と要望された。

具体的には、新校舎に、学生増募を見越して、備えつけねばならない歯科用ユニット約250台分を日本側でめんどろみしてくれないかということである。これに関しては、われわれの権限外のことなので、日本大使ともご相談の上、今回の協力項目とは別のものとして、協力要請をなされてはいかがか。われわれは、そういうお話があったことを確実にお伝えすると答えておいた。

新校舎落成時に設置を予定されている歯科用ユニット・椅子等の配置は

次の通りである。

	完成時	現有
保存科	1 1 2	4
歯周病科	4 0	1 1
小児歯科	2 0	5
補綴科	2 4	7
口腔外科	2 0	6
口腔診断科	1 0	3
矯正科	1 2	4
計	2 3 8	4 0

なお本協力計画で学校歯科看護婦養成所に供与される予定のユニット等50組分は、そのまま旧校舎（現校舎）に留置される。

6 附属学校歯科看護婦養成校について

この養成所は1972年に設立されたもので、入学定員20名、3年課程（第3年次は校外研修）である。したがって現在第1回生のみが在学している。校舎は歯科大学構内を共用している。1976年、歯科大学が新校舎に移転した場合には、養成所は旧校舎に残り、定員を40名に増す計画がある。

さて、学校歯科看護婦 School Dental Nurse とは1921年ニュージーランドで始められたもので、現在17カ国がこの制度を採用している。その業務は、歯科医の管理のもとに歯科診療班を編成して学校を巡回し、簡単な歯科治療（う歯の窩洞形成と充填、歯石除去、浸潤麻酔、抜歯）と予防処置（弗化物の塗布）、口腔衛生指導を行うものである。

ビルマがこの制度の採用に踏み切ったのは、現在人口当りの歯科医密度が1:200,000であるが、これを1:2,000にすることが最終目標であるとしても、歯科大学（100名定員）1校で150年、2校で75年にかかる。そこで学校歯科看護婦を歯科医の代用とし、これをグループ捕捉し易く、歯科罹患率低下に最も効果のある学童の歯科治療に集中的に当らせようと企図したからである。

本養成所の開設に備えて、8名の女子が既にマレーシアに派遣されて学校歯科看護婦の教育を受けており、その一部は帰国して、この養成所の教員となっている。

学科課程は次の通りである。

I	Course	1年次	
	1st Term Primary course		3カ月
	学校歯科看護婦の業務		
	治療学総論		
	衛生学・口腔解剖学		
	生理学・細菌学		
	2nd Term Primary course		3カ月
	歯科治療器械器具の使用法		
	病理学・微生物学		
	口腔治療学		
	3rd Term Primary course		6カ月
	薬物学，歯科病理学		
	診療録作成		
	局所麻酔・抜歯		
	幼児福祉・矯正学		
II	Course	2年次	
	1st & 2nd Term		1カ年
	歯科保存実習		
	歯科衛生教育		
III	Course	3年次	1カ年
	校外臨床実習		

したがって、臨床実習は第1年次の後半から開始される。そこで、第2回生が臨床実習を開始する時期つまり1973年後期には2つの学年が同時に実習を行うから、ユニット等の設備は2学年分として40組が少なくとも必要となる。

本援助計画として供与される予定の歯科用ユニット等の使用計画としては、

学生用 20×2 教官用 5×2

となる。その設置場所はすでに確保されており，われわれはそれを確認し，設計図を受領して帰った。

Memorandum regarding Contents of Discussions made
between the Japanese Dental Cooperation Team
and the Dean of the College of Dental Medicine.

Discussion made on 22.2.73, 9 a.m.

The team was first met by the Dean, who showed around all the departments in the College of Dental Medicine. A brief history of the College was told and the need for opening of new premises was disclosed. The increase of yearly intake of students adequate space for and opening of dental auxillary (School Dental Nurse, Newzealand Type) training and Dental Technician School are being the actual needs for opening a new institute. Plans regarding new building, details of which are shown to the team and 250 teaching units and chairs are necessary to be installed at the new Dental Institute.

1. The team asked the Dean that, while it understand that the existing college of dental medicine needs assistance in teaching of oral microbiology and oral pathology, what else does he consider as the college needs. Professor Aung Than answered that, because these departments are not properly established in the college, it is hoped that the team will provide the Burmese side with assistance to establish the said departments. But he considered the department of prosthetic dentistry also needs an urgent help with a specialist, as the

department lacks properly trained personnel at the moment. He requested the team to consider to dispatch such personnel as early as possible.

2. Professor Aung Than disclosed to the team that he wished to send some staffs from college for training in Japan and asked what type of specialist he can consider to send.

Professor Hayashi told the Dean that any specialist would do but to obtain a Post-graduate degree, one would have to stay for 4 years. He said the team is permitted to say that the college can send 2 persons for short term training either with the length of stay for 6 months for 2 persons or for the length of stay for one year for 1 person.

3. The team asked if a Japanese Specialist be dispatched to the college, what facilities would be given. It was answered that, a house, and a car with a driver would be provided in a usual way as given to a Colombo plan expert. The team was asked for what length of time a Specialist can stay with the college. The team answered that it can be 1 year, but possibly 2 persons for 6 months stay overlapping a few weeks upon each other. The Dean expressed his wish that he can stay for 1 year so as to be able to help organize the department properly.

4. The team disclosed that a person with about 8 years

research experiences and general clinical practice may be available for work in the college for 1 year. His age is about 34, a microbiologist with a Ph. D. degree. He is married with no children. He may be trained to be able to teach in English before he comes to the college. Possibly he may be able to assist in clinical training also.

Discussion made on 22.2.73, 2 p.m.

1. The team disclosed that there is a possibility for the Finance Ministry of Japan to equip the training school for school dental nurse with more sets of chairs. The first batch of 16 will be shipped from Japan by the end of March, and if everything goes well, these units will arrive at Rangoon by May. The team desired to know, how and where the first batch of 16 chairs and units are going to be installed. The team further asked that if possible it be provided with the lay out of the room where the chairs are to be installed, together with the plan for installing water and electrical supplies. The team said the Dental Equipment Company in Japan will dispatch the necessary installation connections. The Dean promised to provide the team with the plan. The team also stated that the Japanese Government will send an installation engineer from J. Morita Co. in mid May for working with the college engineer. The team said that the college needs to send A1 and A4 forms to the Japanese Government for this.

2. The team asked the Dean to prepare a list of stores for order for the next two fiscal years.

3. The team recommends that it is desirable for the Dean and his assistant to visit Japanese dental schools for observation of modern Japanese dentistry. The team would advise the Japanese Embassy and the Japanese Government to invite the Dean and his deputy to visit Japan possibly by the end of September 1973. Then and there, the Dean may choose for future trainees and scholars to be sent. The team flew to Mandalay on 23.2.73 to pay a courtesy call to the Rector, Institute of Medicine, Mandalay and Medical Superintendent, Mandalay General Hospital. They visited dental works at 2 health centres and in general hospital. The team also visited civil hospital Pagan, Nyaungoo and witnessed dental treatments given by medical officers.

Discussion at College of Dental Medicine 26.2.73.

1. Professor Hayashi, the leader, disclosed that his team will make effort to send one oral pathologist and one microbiologist in the middle of August 1973. The length of stay of the oral pathologist and the microbiologist would be 6 months to 1 year.

2. The Dean expressed his wish that the above two specialist will bring necessary equipment together with them.

3. The Dean expressed his desire that a separate project be opened for getting chances of assistance for the college's project of new institute. The team advised that the Ministry of Health, Burma, should make a request to the Japanese Government regarding the above matter.

Ⅳ ラングーン歯科大学における討議内容

1 歯科大学および同附属教育施設に対する教育用資材の供与について

本件に関して、われわれが予め承知していたことは

- ① 先きに派遣された基礎調査団の結果に基づき、昭和47年度を初年度として、3カ年にわたり教育用資材の供与が行なわれる。
- ② 第1回供与物品の品目・数量については、歯科用ユニット16台を柱として、既に予算化されている。
- ③ 第2回以降の分については、本調査団の調査結果および現地における討議の結果によって、その細目が検討される。ただし、歯科用ユニットについては、総数量が50台の予定であって、設置される場所はラングーン歯科大学附属の学校歯科看護婦養成施設である。
- ④ 本供与計画に含まれる予定の物品は学校歯科看護婦養成に必要な教育用器材および歯科大学に派遣される口腔病理学・口腔微生物学の専門家が教育のために使用される器材である。
- ⑤ 3カ年にわたる連年計画ではあるが、予算上は年度ごとに処理される。ということであった。

第1回供与物品の品目および数量はRD記載の通りであって、その内容は学校歯科看護婦養成課程の第2年次前期までに必要な教育用器材が組み込まれている。これについて、われわれがラングーン歯科大学学長と討議したところでは、原則として異存がないとのことであった。ただし、今後の供与計画について、次のような希望意見の開陳があった。

東昇教授を団長とする基礎調査団にも申し上げたが、本学では新校舎の落成をまって、従来の入学定員50名を100名に増加する計画をもっている。その際には約250台分の歯科用ユニットおよび治療椅子を必要とする。現に使用しているものは、その頃になれば、老朽化して使えなくなるであろう。したがって現時点からその配慮をしておかねばならないが、国内予算ではほとんどその望みがない。

本計画による供与予定のユニットおよび椅子の総量が50台であり、供与対象が学校歯科看護婦養成施設であることは十分に承知しているが、可

能ならば、単価を $\frac{1}{2}$ のものに品種を落しても、倍の数量つまり100台分を頂きたい。

正直に申し上げれば、はじめ50台という数をうかがった時、毎年50台、総計150台の誤まりではないかと耳を疑ったしだいである。もし、予算上あるいは立て前上、それが不可能ならば、何とか実現の可能性はないものであろうか。

②学校歯科看護婦の養成課程では、簡単な歯牙う蝕の治療および充顔、抜歯等の実習が行なわれる。したがって、器械のみならず歯牙切削用具および抜歯、充顔用具、最少限の歯科材料についても、ご配慮ありたい。

③歯科用レントゲン撮影装置は診断の必須用具であり、学校歯科看護婦の養成課程で、その活用を充分教育しておきたいので、必要数量の中に最高のもの1台は組み入れて頂きたい。

④口腔病理および口腔微生物の教育用器材については、関係者とご協議の上、専門の立場で起案して頂きたい。なお、これらの器材は臨床病理学および臨床細菌学の実習・教育用として病院の臨床検査室に設置されるので、その点を含めて、品目・数量を検討して頂きたい。

以上の希望に対して、本調査団は次のように対応した。

①歯科用ユニット等の台数については、総計50台というのが本供与計画の根幹をなすものだから、事情は判るが、 $\frac{1}{2}$ 単価のものを2倍の台数にすることは、われわれに許された任務の範囲内では、返答することができない。総計50台ということも、あくまで到達目標であることを了承されたい。ただし、初年度分16台の計算根拠は50台の $\frac{1}{2}$ に相当するものであると理解している。新校舎落成後の必要台数については、関係方面とご相談の上、本件とは別の援助要請として、その実現方をはかられてはいかがか。本調査団としては、そのような希望があったことを確実に報告すると答えた。

なお、われわれが帰国直前、保健大臣と会見した際にも、本件に関し、いずれ別途要請するが、よろしくあっせん願いたいとの発言があった。

②については、予め本調査団が出発に先立って作成しておいた歯科大学・歯科衛生士学校設備基準品目表を示して、先方の希望を質したところ、

別表の様な答を得た。なお、これらの品目は、ラングーン歯科大学および同附属学校歯科看護婦養成施設の授業課程からみて、主として第3年次供与計画に含めることが妥当であることも同意した。ただし、歯科用ユニット・椅子については2年次、3年次にそれぞれ $\frac{1}{2}$ ずつ供与されることが望ましい。

③については、ご希望にそうよう努力する。

④については、堀川教授を中心にして、細目を検討し、口腔病理・口腔微生物学の専門家が到着後直ちに使用できるよう具体案をねること、したがって2年次供与計画の中に組み入れられるべきものであることを了承した。

次に、本調査団は本年度（昭和47年度）分として、すでに船積用意がなされている16台の歯科用ユニット・椅子の配置場所、電気、ガス、水導等に関する計画の提示を求めたところ、具体的な図面を用意して、詳細な説明があり、これを諒承した。なお臨床検査室についても、具体的な成案があることを確認した。

Final and last phase of the Japanese government
aids to the College of Dental Medicine for use
in School Dental Nurse training school.

Sr No	D e s c r i p t i o n	Qty:	Value
1.	Dental Unit	18	321,732
2.	Foot Pump Chair	18	114,075
3.	Ultrasonic Scaling Machine	3	84,000
4.	Set of 22 pieces Carbide Burs	100	13,000
5.	Set of 8 pieces of Steel Burs for hand piece.	100	4,400
6.	Set of 2 pieces Steel Bur for hand pieces	300	4,400
7.	Set of 6 pieces Steel Burs for Contra angle	300	9,900
8.	Set of 2 pieces of Steel Bur for Contra angle	300	4,400
9.	Set of 72 pieces of engine Burs assorted.	100	11,430
10.	Autoclave	1	68,000
11.	Laboratry Lathe	6	237,000
12.	Model Trimmer	2	76,000
13.	Dental Engine for Laboratry Praticce	40	1,160,000
14.	X. ray Max II	3	192,000
15.	Phantom head	60	3,600,000
16.	Casting Machine	2	100,000
17.	Electrolytic Plating Machine	1	40,000
18.	Panorama Type X. ray Elipsopantomography	1	1,600,000
19.	Dental Box with a set of instruments in each	60	2,400,000
20.	Operating Stool	25	1,250,000
T o t a l =			11,290,337

2 口腔病理学，口腔細菌学専門家派遣について

本件専門家派遣について当初ビルマ側は，口腔病理，細菌両部門を兼任指導できる専門家1名を（Visiting Professorとして1年～3年）派遣して欲しいという旨の要請を出していたが，日本においては両部門はそれぞれに専門分化されているので，派遣専門家数は2名になる旨伝え，ビルマ側もこれを了解した。

ビルマ側は最初に派遣される専門家の派遣期間は最低1年にして欲しい旨要請したが，調査団は，日本側の協力していただく大学の都合もあるので，1年はむずかしく6カ月間になる見込みが強い。しかしながら後任専門家の派遣時期をある期間オーバーラップさせることはできる旨伝えると，ビルマ側はこれを了承した。派遣時期については，同歯科大学の新学期が9月1日より始るので，これに間に合うように派遣して欲しい旨，ビルマ側は要請したが，この点については，努力する旨調査団は伝えた。しかしながらこの点については供与機材の現地到着時期を重視して決定することにならざるを得ないと思われる。

日本人専門家に指導して欲しいことは，ビルマ側の説明によると，Applied なあるいは，Practical な口腔病理学，細菌学の講義，実習指導を歯科大学学生及び学校歯科看護婦生にすることであり，実習の前提としての検査室，実習室の開設に協力することである。ただし，新歯科大学が設立された場合は，現在，第1医科大学で行われているBasic な口腔病理学，細菌学の授業も併せてして欲しいということであった。

両部門の専門家は，当而は歯科大学の学生らに対しそれぞれの分野の講義及び実習指導をするわけであるが，最終的で最も重要な任務は，そのような講義，実習指導ができる現地人教官（カウンターパート）を育成し，両部門を彼らに引き継がせることにあることは言うまでもない。この部門におけるカウンターパートとしては歯科大学副学長から示されたところによれば下記の人物が候補に上っているとの事であった。

口腔病理学 氏名	所属先
Dr. Khin Maung Lay	歯科大学
Dr. Tin Maung Maung	歯科大学

Professor. R. Wong Medecin (1)

Dr. May Mya Win Medecin (1)

口腔細菌学

Professor. Daw Hpay Medecin (1)

Dr. Le Le Win 歯科大学

両部門を現地歯科大学側に引き渡す時期は、主として上記のカウンターパートの努力と能力にかかっているわけであろうが、本件プロジェクトの協力期間を49年度(昭和50年3月まで)までと設定してあるので、引渡し時期も現時点ではそれが一応の目処になると思われる。

3 歯科補綴学の専門家の派遣要請について

口腔病理学および口腔細菌学専門家の派遣については予め双方の間に了承がなされていたが、現地到着後、改めて歯科大学長より歯科補綴学専門家の派遣方の要請があった。その理由は、現在、大学には教授1、講師2の教員がおり、附属技工士学校には英人技工士1名がいるが、教育要員としては極めて手薄であり、本学で最もおこなっているのは歯科補綴領域であるからとのことであった。

われわれが歯科大学内を視察した結果では、歯科技工士学校における実習態度はまじめであり、作品もまとまったものであったが、技工物の設計、技工物の種類等の質的な水準については、ほぼ半世紀のおくれをもっていた。また英人技工士はコロポ計画により派遣されている者で、若年ではあるが熱心に教育に当たっていた。しかし、われわれがみるところでは、技工士学校の教育に精いっぱいであって、学部の教育要員としては不足のように感じた。

そもそも歯科補綴は歯科治療の終末処理をなすものであり、歯科臨床の根幹をなしている。また、補綴物の種類と水準とは近年急速に進歩し、わが国の歯科大学設置基準では、少なくとも2講座(教授2、助教授2、助手10~16)を持たなくてはならないことになっている。なお、完備した歯科大学は3講座の陣容で補綴学を教育しているから、ラングーン歯科大学の補綴部門は全く未整備といわざるを得ない。

その意味では、歯科大学長の要請は無理からぬものとして理解できた。しかし、われわれの権限外のことなので、要望を伝えることを約したのみに終わった。

4 研修員の日本側への受け入れについて

本件について双方間で話し合った研修員の種類は

- ①歯科用ユニット椅子等の器械の保守要員の研修
- ②口腔病理学・口腔細菌学を担当するものとして、本協力計画終了後のビルマ側後継者の養成のための研修
- ③歯科大学の教員予定者として、有資格者（歯学士）を日本に派遣し、学位を取得させるための卒後研修

である。以上のうち①、②については、われわれの出発前から検討され、予算の範囲内で実現可能なことが了解されていた。しかし③については、わが国では、歯学の博士課程（４年）はあるが修士課程はないこと、外国人に対する特殊の課程もないから、事実上、日本の歯科大学を卒業した者のみに博士課程に対する門戸が開かれていることを説明した。

なお、会談の席上、４８年度中に現歯科大学長 Dr. Aung Than 及び、副学長 Dr. Kin Maung Lay の日本における歯科学教育事情視察のため短期研修の必要が語られ、双方の都合により、実現可能ならば、きわめて望ましいことであるとの合意に達した。

V 調査団の意見

われわれは、現地視察およびビルマ側関係者との会談の結果にもとづき、予め委任された事項についてRDを作成し、調印して帰ったが、本援助計画の将来に関する意見として、これをまとめると次の通りである。

1. ラングーン歯科大学附属学校歯科看護婦養成施設に対して供与する歯科用ユニットおよび治療椅子の数量は総計50台（昭和47年度16，昭和48年度16，昭和49年度18）とすることが望ましい。なお、その機種は、使用頻度および保守の都合からみて、構造が簡単で堅牢なものがよい。
2. 口腔病理学および口腔細菌学（口腔微生物学）担当の専門家の派遣は昭和48年度より開始し、講義および実習に必要な諸準備のため、なるべく新学年度（9月）の開始前に現地に到着していることが望ましい。
3. 上記の専門家が使用する教育用器材は昭和48年度予算で整え、予め現地に到達している必要がある。これらの教育用器材の中には、例えばコピー用機械、写真機等の現地で教材を作成する器材を含めておかねばならない。
4. 学校歯科看護婦養成施設への教育用器材の中には、歯科用レントゲン写真撮影装置のほか、予算の許す限り、模型実習、臨床実習に必要な器材を組み込むことが望ましい。
5. 供与した歯科用ユニット等の保守に当るビルマ側技術者を研修のため相当期間日本に受け入れる必要がある。
6. 供与した器材の保守・修理のため、部品等の供与のための予算を、本協力計画と合わせて、考えておく必要があろう。
7. 本協力計画終了後の口腔病理学・口腔細菌学担当のビルマ側後継者を相当期間日本に受け入れ、研修させる必要がある。
8. 本援助計画とは別に、歯科補綴学の専門家派遣の要請があったが、その必要性については充分理解できるので、今後の問題として検討してほしい。
9. 1973年度より始まるラングーン歯科大学の拡充計画に伴い、本援助計画とは別に、250台分の歯科用ユニット・椅子の供与を要請されたが、

これは、ビルマにおける急迫した歯科事情の解決につながる重要な問題であり、最も有効な援助対象でもあるので、別途その実現方を検討されたい。

10. 本援助計画の成果を確実にするためには、現地に歯科用器械の修理施設および歯科材料の製造施設を設けさせ、これを指導する必要があるだろう。
11. 本協力計画にそって、ラングーン歯科大学および附属教育施設における教育効果をあげさせるためには、大学管理者を日本に相当期間受け入れ、研修させることが望ましい。

ビルマは現在、歯科医療事情を改善するために、歯科医師や学校歯科看護婦の早急にして大量な養成が急がれている。

本プロジェクトは歯科大学、同学付属校のマニパワー養成という面での教育協力を通じてビルマ国の歯科衛生事情の改善に、さらにはビルマ国民の健康向上に資するという意味から極めて波及効果の高いプロジェクトであると思われるのである。

参 考 资 料

COLLEGE OF DENTAL MEDICINE

RANGOON.

1. INTRODUCTION:

2. ACHIEVEMENTS:

(a) Teaching of Dentistry

(b) Manpower

(i) Staff

(ii) Students

(c) Dental Equipment

(d) Dental Treatment given to public
given by Staff and Students.

1. INTRODUCTION:

The Rangoon College of Dental Medicine was established in 1964 by the Revolutionary Government of the Union of Burma, for the first time in Burma. Since then, it has been affiliated to the Institute of Medicine (I), Rangoon. The College conducts Bachelor of Dental Surgery course which lasts six years to suitable matriculates. The first two batches of twenty each were selected from the senior and junior intermediate science students with biology combinations in 1964. Due to the acute shortage of dental surgeons in the country, the College admitted fifty students for the first year B. D. S. course in 1965. Therefore in the year 1964 - 65,

there were only forty students in the College but the student population increased to 300 students in the year 1972 - 73. Similarly the College started with only 16 full time staff members in 1966 - 76 which was raised to 54 in the year 1972 - 73. As part of Clinical teaching programme the College Staff and Students treated 2501 patients in 1967 - 68, 4628 patients in 1968 - 69, 10,475 patients in 1969 - 70, 12,000 patients in 1970 - 71, 15,000 patients in 1971 - 72.

2. ACHIEVEMENTS:

(a) Teaching of Dentistry.

Basic pre-medical subjects and medical subjects are taught to students at the Institute of Medicine (I).

Basic dental and clinical subjects are taught at the College of Dental Medicine.

The College started with only one department that is Oral Surgery Department in 1964. The present set up of the various department of the College is as follows:

There are 6 major departments:

1. Department of Oral Surgery.

- (a) Radiology Division.
- (b) Anaesthetic Division.
- (c) Oral Diagnosis.

2. Department of Oral Medicine.

- (a) Oral Pathology.
- (b) Periodontology Division.
- (c) Basic Dental Science Division.

3. Department of Conservative Dentistry.
 - (a) Conservative Dentistry Division.
 - (b) Junior and Senior Operative Dentistry Division.
4. Department of Prosthetic Dentistry.
 - (a) Prosthetic Dentistry Division.
 - (b) Dental Materials Division.
 - (c) Basic Dental Technology Division.
5. Department of Dental Health.
 - (a) Preventive and Community Dentistry Division.
 - (b) Children's Dentistry Division. (Orthodontics and Pedodontics)
6. Department of Pre-Clinical and Clinical Medical Sciences.
 - (a) Anatomy.
 - (b) Physiology.
 - (c) Microbiology.
 - (d) Pharmacology and Dental Therapeutic.
 - (e) General Pathology.
 - (f) General Medicine.
 - (g) General Surgery.

(b) Manpower:

Staff: The College started with the present Dean, Professor U Aung Than, one full time lecturer, one part time lecturer, three assistant lecturers and ten demonstrators. The teaching staff members were increased to four

full time lecturers, five part time lecturers, eight assistant lecturers; and 25 demonstrators in the year 1972 - 73.

Students: In 1964 there were only twenty students in the first year B. D. S. and twenty students in the second year. In 1965, fifty students were admitted in the first year. Since then 50 students are being admitted every year. Last academic year 1971 - 72 there were altogether 300 students from first year to final year.

(c) Equipment: In 1966 - 67 there were only four dental units and four chairs. But in 1967 - 68 it increased tremendously to 33 dental units and 33 chairs. In 1968 - 69 it again increased to 48 units and 48 chairs. And in 1969 - 70 the number of units and chairs increased further to 75 and 75 respectively. The College is also using modern teaching aids such as remote control slide projector, over-head projector, epidiascope, short circuit television and videotape.

(d) Dental Treatment:

As part of clinical dentistry curricula, every student beginning from fourth year after passing Junior Operative Technique is required to attend dental clinics under the supervision of clinical demonstrators and tecturers. As such they give dental treatment such as extractions, gum treatment, restoration of carious, teeth, replacement of missing teeth by artificial dentures, treatment

of mal-aligned teeth etc. In 1967 - 68 students and staff gave dental treatments to 2501 patients. In 1968 - 69, 4628 patients were treated and in 1969 - 70, the number of patients treated increased by leaps and bounds to 10475.

General Information

The territory of Burma is approximately 261,789 square miles. The estimated population is 28.2 million. Geographically, it lies in tropic zone. It is bounded by People's Republic of China in the North, Laos, and Thailand in the East and Bangladesha and India in the West and Bay of Bengal in the South. The estimated population in Rangoon is over 1.8 million.

The population of Burma is composed of various ethnic groups, viz, Burmans, Shans, Karens, Kachins, Mons, Chins, Arakanese and Kayahs etc. The religion of the people being mostly Buddhist and the rest are Muslims and Christians.

As stated authoritatively by W. H. O. visiting consultant to Burma, 90 % of the population and 76 % of School children from 5 - 12 years have dental diseases. With a notable advancement, in the new educational system the Rangoon College of Dental Medicine was first established in 1964 by the Revolutionary Government of the Union of Burma. The first two batches of twenty each were admitted to the College but due to acute shortage of qualified dental surgeons in the country, the college admitted fifty students in 1965. Along with training of dental surgeons the college has to provide teaching facilities for training of

School Dental Nurse. Thus to meet the demands of Country needs the revolutionary government has approved to expand the teaching premises. Thus, entirely new project has been conducted since 1972-73 budget year. The planning in architectural aspects of building the new institute would be carried at as follows:

1. Foundation of the main clinical building would be completed in budget year 1972-73.
2. Three Stories of the building would be build in budget year 1973-74.
3. The Final completion of the building, installation of water, electricity and sewage system would be effected together with building decoration, in the budget year 1974-75.
4. Opening of the new premises for teaching would start in the academic year 1975-76.
5. Installation of equipments would be carried out during the last phase of completion of building i. e. as in 4.

The installation of equipments especially, distribution of dental units and chairs would be as follows.

- (a) In Conservative dentistry - 112 units & chairs department

(b) In Periodontology department	- 40 "	"
(c) In Children's department	- 20 "	"
(d) In Prosthetic dentistry department	- 24 units & chairs	
(e) In Oral Surgery department (Exodontia)	- 20 "	"
(f) In Oral diagnosis department	- 10 "	"
(g) In Orthodontia department	- 12 "	"
(h) Dental Nurse	- 24 "	"
	<hr/>	
	Total	<u>262</u>
		=====

SYSTEM OF TEACHING DENTISTRY
IN BURMA (REVISED FOR ACADEMIC YEAR 1972 - 1973)

DURATION.

Pre-medical. 1st & 2nd year.	- Burmese, English, Mathematics, Physics, Chemistry, Biology.	18 months.
Pre-clinical. 3rd Year.	- Human Anatomy, Human Physiology, Dental and Oral Anatomy and Dental Physiology.	12 months.
Paraclinical. 4th Year.	- General and Oral Pathology. - General and Oral Microbiology. - General and Dental Pharma- cology. - Dental Materials. - Junior Operative Dentistry. - Technique Course in Prosthetic Dentistry.	18 months.
Clinical. 5th Year.	- Clinical Dentistry (Principles of Stomatology - Periodontia and Paedodontia). - General Surgery. - General Medicine.	

DURATION.

- Applied Oral Pathology and Applied Oral Microbiology. 12 months.
- Social and Preventive Dentistry (General Public Health, Epidemiology & Epidemiological Survey).

6th Year.

- Oral Surgery including dental anaesthesia and Oral Radiology.
- Oral Medicine (Applied Oral Pathology, Applied Oral Microbiology, Periodontia, Oral Diagnosis).
- Social and Preventive Dentistry, (Public health dentistry, including Orthodontia & Paedodontia.) 12 months.
- Conservative Dentistry (Crown and bridge Prosthodontics, Endodontics).
- Prosthetic Dentistry.

Total = 6 Years.

Internship

7th Year.

- Internship training in all the departments. 9 months)
- Comprehensive treatment) 1 Year.
- training Submitting of) 3 months)
- Dissertation of research.)

Grand Total = 7 Years.

SYLLABUS OF TRAINING FOR SCHOOL DENTAL NURSE

Training Course - 3 Years.

I. Course - 1st Year.

Period - 1st Term Primary Course.

Time - 3 months.

<u>S U B J E C T S</u>	<u>T I M E</u>
(1) Outlines of duties and general instruction Nature. Verbal and Practical instruction.	13 hrs.
(2) First Aid	30 hrs.
(3) Poster Work	65 hrs.
(4) Hygiene Nature. Lectures and Demonstration.	10 hrs.
(5) Dental Anatomy. (Lecture 23 hrs. Nature. Lectures, Carving & Drawing (Drawing 23 hrs. Classes 129 hrs. (Carving 83 hrs.	
(6) Anatomy. (Lectures 30 hrs. Nature. Lectures and (Drawing 30 hrs. Drawing 60 hrs.	

	<u>TIME</u>
(7) Physiology	20 hrs.
(8) Histology	50 hrs. (Lectures 25 hrs. (Drawing 25 hrs.

COMPLETION OF PRIMARY COURSE
PRIMARY COURSE EXAMINATION

Period - 2nd Term.

Time - 3 months.

<u>S U B J E C T S</u>	<u>TIME</u>
(1) Use and Care of Instruments	40 hrs.
Nature. Practical Classes.	
(2) General Pathology and Bacteriology	30 hrs.
Nature. Lectures.	
(3) Operative Technique	305 hrs. (Lectures 55 hrs. (Practical, (on-Dummies 250 hrs.

Period - 3rd Term.

Time - 6 months.

(1) Pharmacology and Therapeutic	20 hrs.
Nature. Lectures.	
(2) Dental Pathology	26 hrs.
(3) Clinical Records	15 hrs.
Nature. Lectures.	

<u>S U B J E C T S</u>	<u>T I M E</u>
(4) Local Anaesthesia and Extraction Nature, Lectures and Demonstration.	15 hrs.
(5) Child Welfare Nature, Lectures and Visit to Institution.	12 hrs.
(6) Orthodontics Nature, Lectures and Demonstration of Cases.	11 hrs.

COMPLETION OF INTERMEDIATE COURSE
INTERMEDIATE COURSE EXAMINATION

- II. Course - 2nd Year.
Period - 1st 2nd & 3rd Terms.
Time - 1 Year.

<u>S U B J E C T S</u>	<u>T I M E</u>
(1) Operative Dentistry Clinical Nature. Clinical.	700 hrs.
(2) Dental Health Education Nature. Lectures and Demonstration and Talks to Schools as can be arranged.	15 hrs.

On completion of the first six months of second year, the first qualifying examination will embrace the following subjects.

1. Dental Health Education.

2. Dental Surgery and Pathology.
3. Operative Dentistry.
4. Pharmacology and Therapeutic.
5. Local Anasthesia and Extractions.

At the end of the 2nd year final examination will be held.

III. Course - 3rd Year.

Time - 1 year.

(1) Field Work

1. Practical training in clinics under Supervision.
 2. Dental Health Education and Practical training in Schools, under Supervision
-

STAFF LIST

(1) Burmese.

Asst. Lecturer	- U Aye Mg (M. A)
"	- Daw Aye Kyi (M. A)
Tutor	- Daw Kyi Kyi Win
	- Daw Khin Khin Win
	- Daw Khin Khin Thi
	- Daw Khin Khin

(2) English.

Asst. Lecturer	- Daw Khin Thidar (M. A)
"	- Daw Khin Hla Hla (M. A)
Tutor	- U Mg Mg
	- U Mya Thway
	- Daw Khin Khin Cho
	- Miss V. Godoin

(3) Physics.

Asst. Lecturer	- Daw Su Su (M. Sc)
"	- Daw Khin Mya Htay (M. Sc)
Demonstrator	- Daw Khin Swe Aung (M. Sc)
	- H. S. Vanya
	- U Myint Thein
	- U Thet Tun
	- U Aye Maung

(4) Chemistry.

Lecturer	- U Yu Htay (M. Sc)
Asst. Lecturer	- U Khin Mg Zaw (M. Sc)
"	- Daw Khin Ohmar Yee (M. Sc)
Demonstrator	- U Kyaw Win
	- U Htan Aung
	- Daw Kyi Kyi
	- Daw Kyi Soe

(5) Botany.

Asst. Lecturer	- Mr. S. T. Prasad
"	- Daw Mya Than Chain
Demonstrator	- U Win Ko
	- U Ti Kyi
	- U Thein Kywe
	- U Tin U
	- Daw Tin Yee

(6) Zoology.

Asst. Lecturer	- Daw Khin Myint Swe (M. Sc)
"	- U Kyaw Myint U (M. Sc)
"	- Daw Khin Thet Wai (M. Sc)

Demonstrator - Daw Tin Tin Ohn
- Daw Khin Toe Myint
- Daw Tin Htay
- Daw Saw Bu

(7) Maths.

Asst. Lecturer - Daw Khin Ma Ma (M. Sc)
Demonstrator - Daw Lwin Lwin Kyu (M. Sc)
- Daw Kyu Kyu Lwin (M. Sc)

(8) Human Anatomy.

Professor Tin Maung, M. B. B. S. Ph. D (St. Andrew).
Parttime Lecturer - Dr. Kyi Teck, M. B. B. S. (Rgn.)
Asst. Lecturer - Dr. Khin Than Yee, M. B. B. S. (Rgn.)

Demonstrator - Dr. Khin Thet Nyo, M. B. B. S.
(Rgn.)
- Dr. Khin Pyone Yee, M. B. B. S.
(Rgn.)

(9) Human Physiology.

Professor Mya Tu, M. B. B. S. (Rgn.) Ph. D
Asst. Lecturer - Dr. Mya Mya Aye, M. B. B. S.
(Rgn.) M. Sc.

Demonstrator - Dr. Htay Htay, M. B. B. S. (Rgn.)
- Dr. Khin Mg Win (4) M. B. B. S.
(Rgn.)

(10) Dental & Oral Anatomy & Dental Physiology.

Lecturer - Dr. Khin Maung Lay, M. B. B. S. (Rgn.) M. D. S.
(Eng.)

Demonstrator, Dr. Tin Maung Maung, B. D. S. (Cal.)

(11) General & Oral Pathology.

Professor Khin Mg Win, M. B. B. S. (Bom.), F. R. C. P.,
F. R. C. (Path).

Demonstrator, Dr. Pye Nyein Aye, M. B. B. S. (Rgn.)

(12) General & Oral Microbiology.

Professor. Daw Hpay, M. B. B. S., D. T. M. & H (Eng.)
Dip in Bact. (London) M. P. H.
(Hav.)

Demonstrator, Dr. Nyein Nyein Win, M. B. B. S. (Rgn.)
Dr. Nyint Myint Lin, M. B. B. S. (Mdly.)

(13) General & Dental Pharmacology.

Professor. Daw Khin Kyi Kyi, M. B. B. S. (Rgn.), Ph. D
(Canada).

Demonstrator, Dr. Khin Ohn Htwe., M. B. B. S. (Rgn.)

Part. time - Dr. Rose Mary Hla Dani Chain,
B. Sc (Rgn.), B. D. S. (Hons.) (Cal.)

(14) Dental Materials.

Asst. Lecturer. Dr. Kyaw Minn, B. D. S. (Cal.)

(15) Junior. Operative Dentistry.

Asst. Lecturer - Dr. Chit Oo, B. D. S. (Pb.) M. Sc

Demonstrator - Dr. Aung Koe, B. D. S. (Cal.)

(16) Technique Course in Prosthetic Dentistry.

Lectuer in the colompo plan Advisor Mr. A. R. D.

Waghorn. (City & Guilds certificate of technology).

Chief. instructor technician - U Than Nyunt. (City & Guilds certificate of technology(Eng.).

(17) Clinical Dentistry (Principles of Stomatology, Periodontia and Paedodontia).

Professor Aung Than, M. B. B. S. , D. D. S. , F. A. C. D. ,
F. I. C. D.

Lecturer - Dr. Myint Naing, B. D. S. , M. D. S.

Asst. Lecturer - Dr. Khin Sandar, B. D. S. M. Sc.

(18) General Surgery.

Professor Kyee Paw - M. B. B. S. , F. R. C. S. , F. A. C. S. ,
F. I. C. S.

Professor Kyaw Maung - M. B. B. S. , F. R. C. S. , (Edin.)

Lecturer Dr. Zaw Win, M. B. B. S. , F. R. C. S. (Edin.)

Asst. Lecturer, Dr. Ye Myint, M. B. B. S. , F. R. C. S. (Edin.)

(19) Medicine.

Professor Hla Myint, M. B. B. S. , M. R. C. P. , F. R. C. P.

Professor R. Ba Pe, M. B. B. S. , M. R. C. P.

Lecturer - Dr. Su Su Myint. M. B. B. S. , M. R. C. P.

(20) Applied Oral Pathology and Applied Microbiology.

Lectuerere - Dr. Khing Maung Lay, M. B. B. S. , (Rgn.)
M. D. S. (Eng.)

Demonstrator - Dr. Tin Maung Maung. B. D. S. (Cal.)

(21) Social & Preventive Medicine.

Head of Dept. Dr. Kyaw Tint, M. B. B. S. (Rgn.),

D. P. H. (Canada) D. T. P. H. (London).

Asst. Lecturer - Dr. Than Than Hla, M. B. B. S. (Rgn.)
Dr. Than Than Hla. M. B. B. S. (Rgn.)
D. T. M & H. (London)

Demonstrator - Dr. Win Maung. M. B. B. S. (Rgn.)
Dr. Than Than Hla. M. B. B. S. (Rgn.)

(22) Oral Surgery including Dental Anacsthesia and Oral Radiology.

Professor of Stomatology: Professor Aung Than,
M. B. B. S. (Rgn.), D. D. S.
(Penn.) F. A. C. D. , F. I. C. D.

Lecturer - Dr. Thet Hta Way. M. B. B. S. (Rgn.), B. D. S.
(Otago) F. D. S. , R. C. S
(Eng.)

Asst. Lecturer - Dr. Aung Than (2). B. D. S. (Osaka). ,
M. Sc(London).

Demonstrator - Dr. Paing Soe, Stomatologist(Bulgaria)

(23) Oral Medicine. (Applied Oral Pathology, Applied Oral Microbiology, Periodontia and Oral Diagnosis.

Head of Department, Dr. Khin Maung Lay, M. B. B. S. ,
M. D. S. (Eng.)

Lecturer - Dr. Myint Naing, B. D. S. (Cal.), M. D. S.
(Bombay).

Demonstrator - Dr. Tin Maung Maung, B. D. S. (Cal.)
Dr. Mya Thaw, B. D. S. (Rgn.)

(24) Social and Preventive Dentistry (Public Health

Dentistry including Orthodontia and Paedodontia).

Head of Department - Dr. Than Khin Maung. B. D. S. (Pb.),
D. P. D. (U. Dundee).

Asst. Lecturer - Dr. Kyaw Sein, B. A. , B. D. S. (Pb.) ,
D. D. P. H. R. C. S. (Eng.).

Asst. Lecturer - Dr. Aung Myint, B. Sc. , B. D. S. (Luck.)
D. Orth. R. C. S. (Eng.)

Asst. Lecturer - Dr. Khin Sandar, B. D. S. , M. Sc. (London.)

Demonstrator - Dr. Khin Zaw Win. B. D. S. (Rgn.)

- Dr. Tun Naung. B. D. S. (Rgn.)

(25) Conservative Dentistry (including crown and Bridge

Prosthesis and Endodontics).

Head of Department - Dr. Nan Shein. B. D. S. (Cal.)
M. Sc (Lond.)

Asst. Lecturer - Dr. Chit Oo, B. D. S. (Pb.), M. Sc
(Manchester)

Demonstrator - Dr. Aung Koe, B. D. S. (Cal.)

- Dr. Ba Myint, B. D. S. (Pb.)

- Dr. Sao Thant Yee, D. D. S. (Tokyo).

- Dr. Aung Than (3), M. D. (Special Stoma-
tology U. S. S. R. R.)

(26) Prosthetic Dentistry.

Head of Department - Dr. Htay Saung, M. B. B. S. (Rgn.)
Ph. D (Stomatology) USSR.

Asst. Lecturer - Dr. Khin Maung Latt, B. D. S. (Pb.),
M. Sc(Lond).

Asst. Lecturer - Dr. Kyaw Minn, B. D. S. (Cal.)

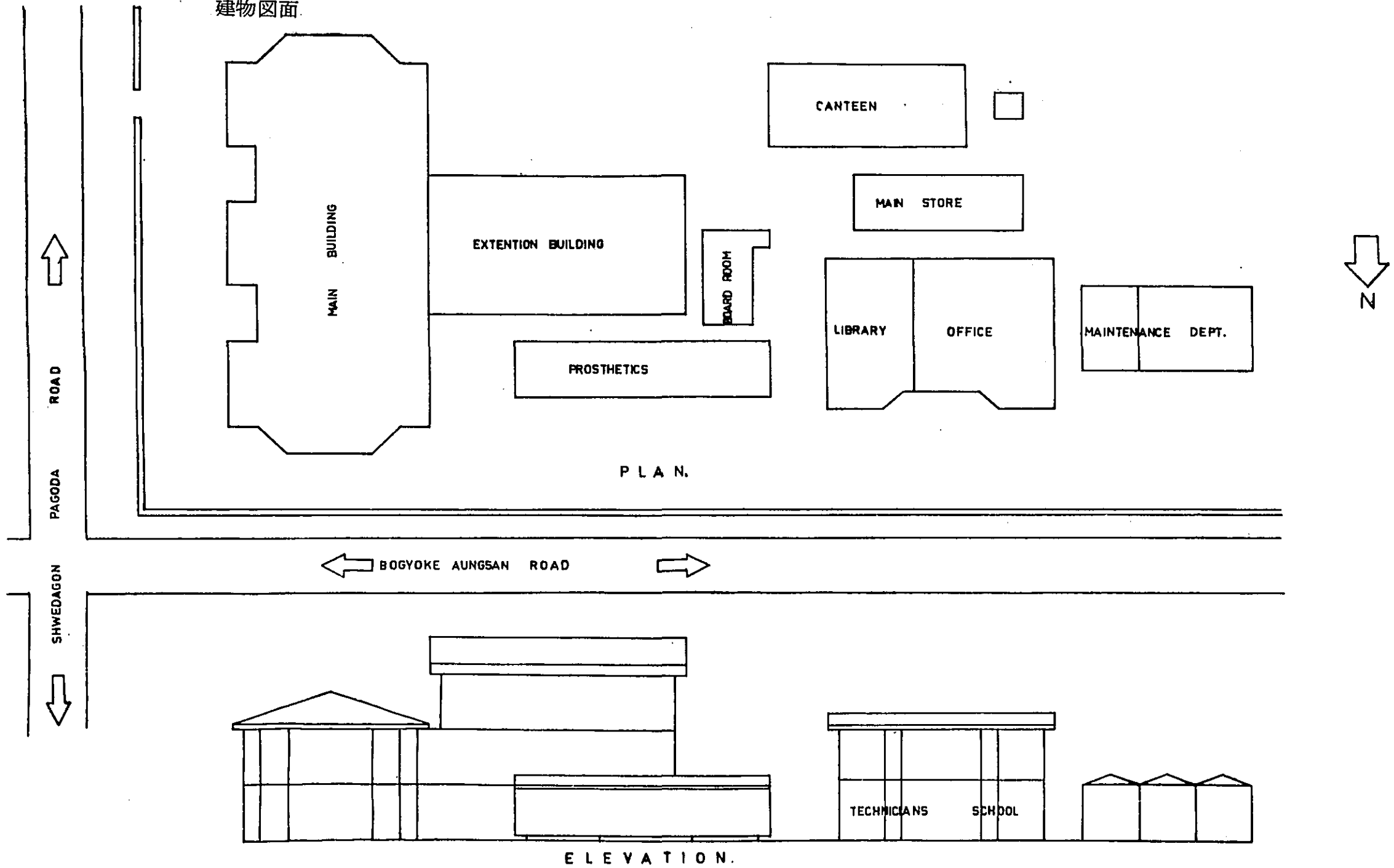
Administrative Staff.

<u>Sr. No.</u>	<u>Designation.</u>	<u>Sanction Strength.</u>
1.	Principal	1
2.	Registrar Admin. Officer	1
3.	Account Officer	1
4.	Branch Clerk	2
5.	Cashier	1
6.	Store Keeper	1
7.	Librarian	1
8.	Engineer	1
9.	Upper Division Clerk (grade)	3
10.	Lower Division Clerk	6
11.	Asst. Store Keeper	1
12.	Typist	2
13.	Steno-typist	2
14.	Electrician	1
15.	Asst. Electrician	1
16.	Electric Attendant	1
17.	Driver	2
18.	Gastener Attendant (= for Printing)	1
19.	Jamada (= Chief Peon)	1
20.	Peon (a sort of messenger)	3
21.	Watch man	4
22.	Gardener	1
23.	Sweeper	7
24.	Telephone Operator	1

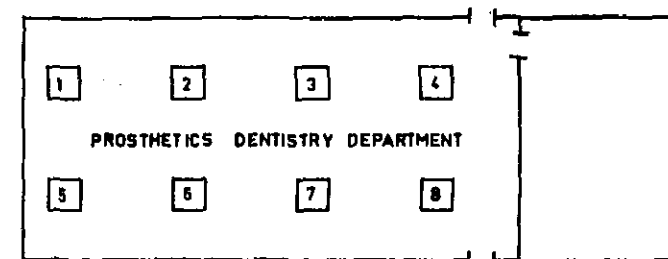
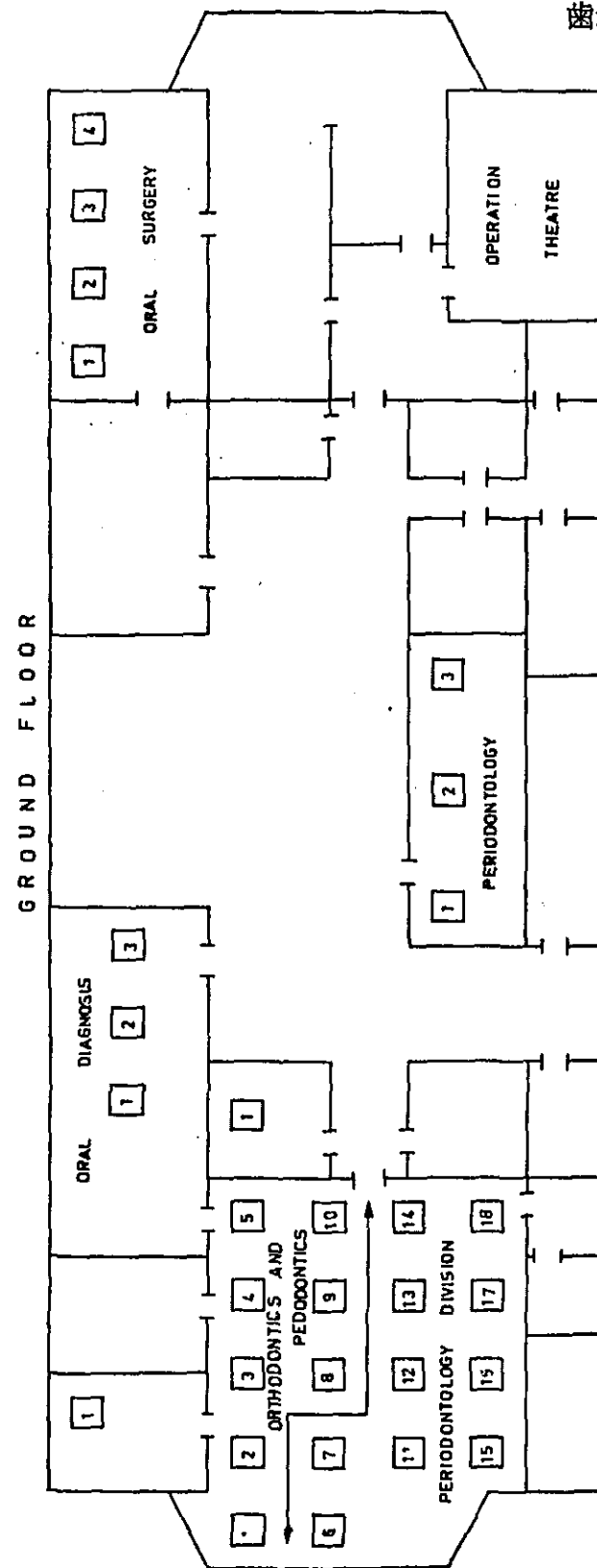
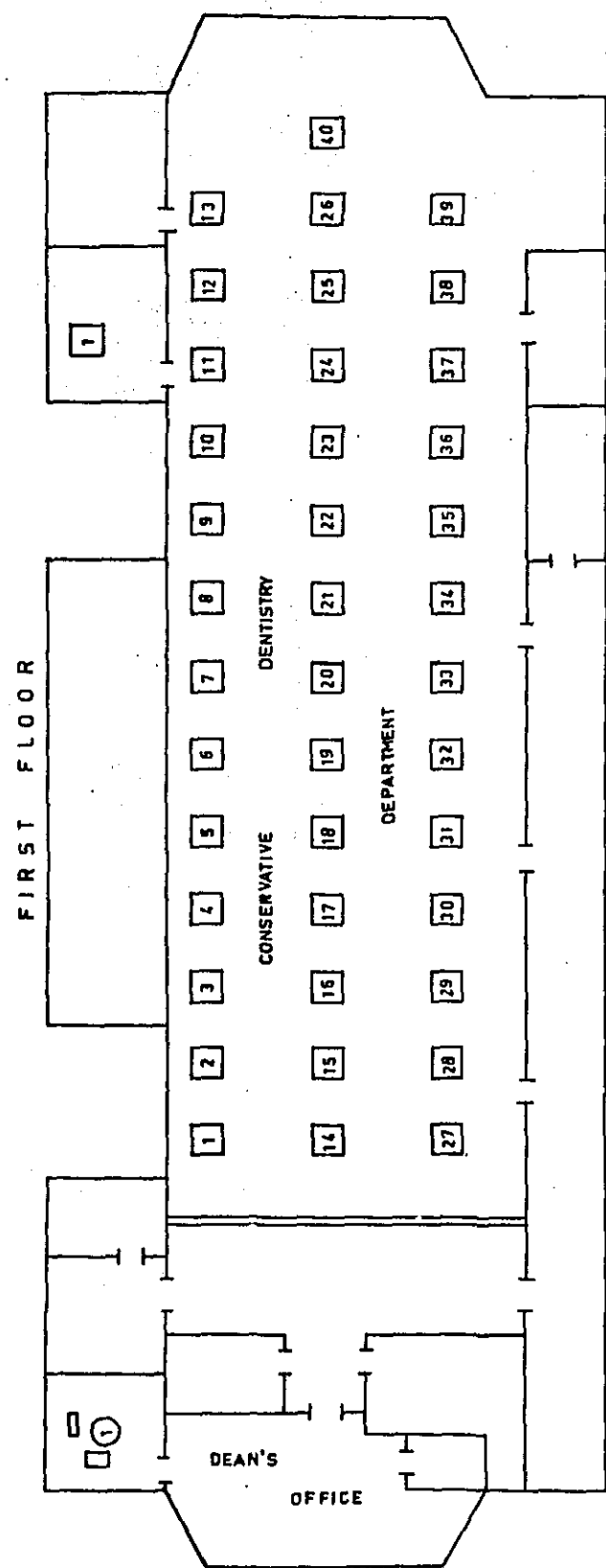
Teaching Staff.

1.	Dental Technician	4
2.	Sister tutor for Dental Nurse	7
3.	Laboratory Incharge	1
4.	Chief Dental Technician	1
5.	Senior Dental Technician	5
6.	Blue Staff Nurse who got double certificate	1
7.	Trained Nurse	4
8.	Audiovisual Technician	1
9.	Photographer	1
10.	Compounder	1
11.	Lab. Assistant	7
12.	Lab. Attendant	12

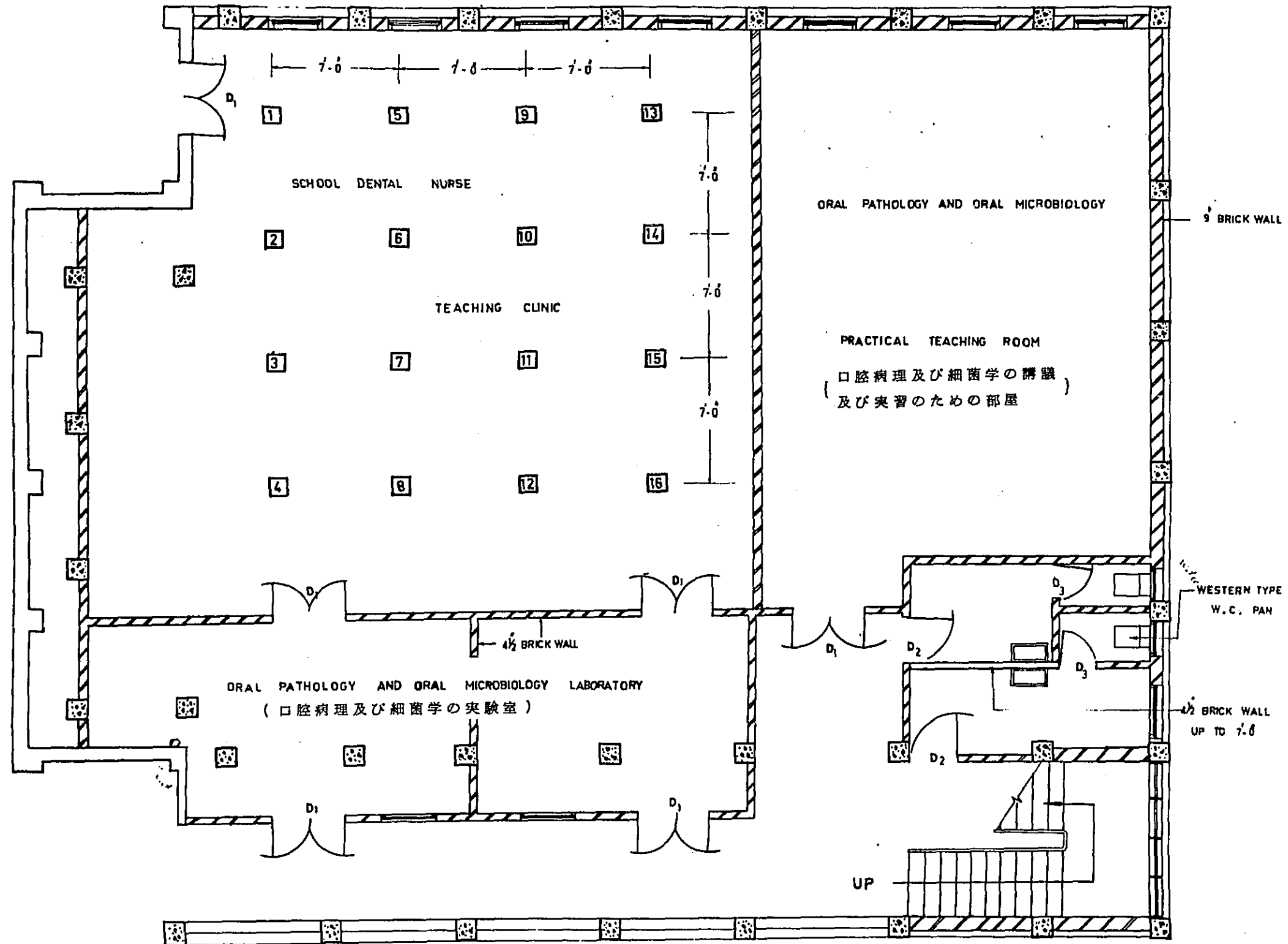
現在の歯科大学 (College of Dental Medicine Rangoon)
 建物図面



歯科大学 Main Building の内部



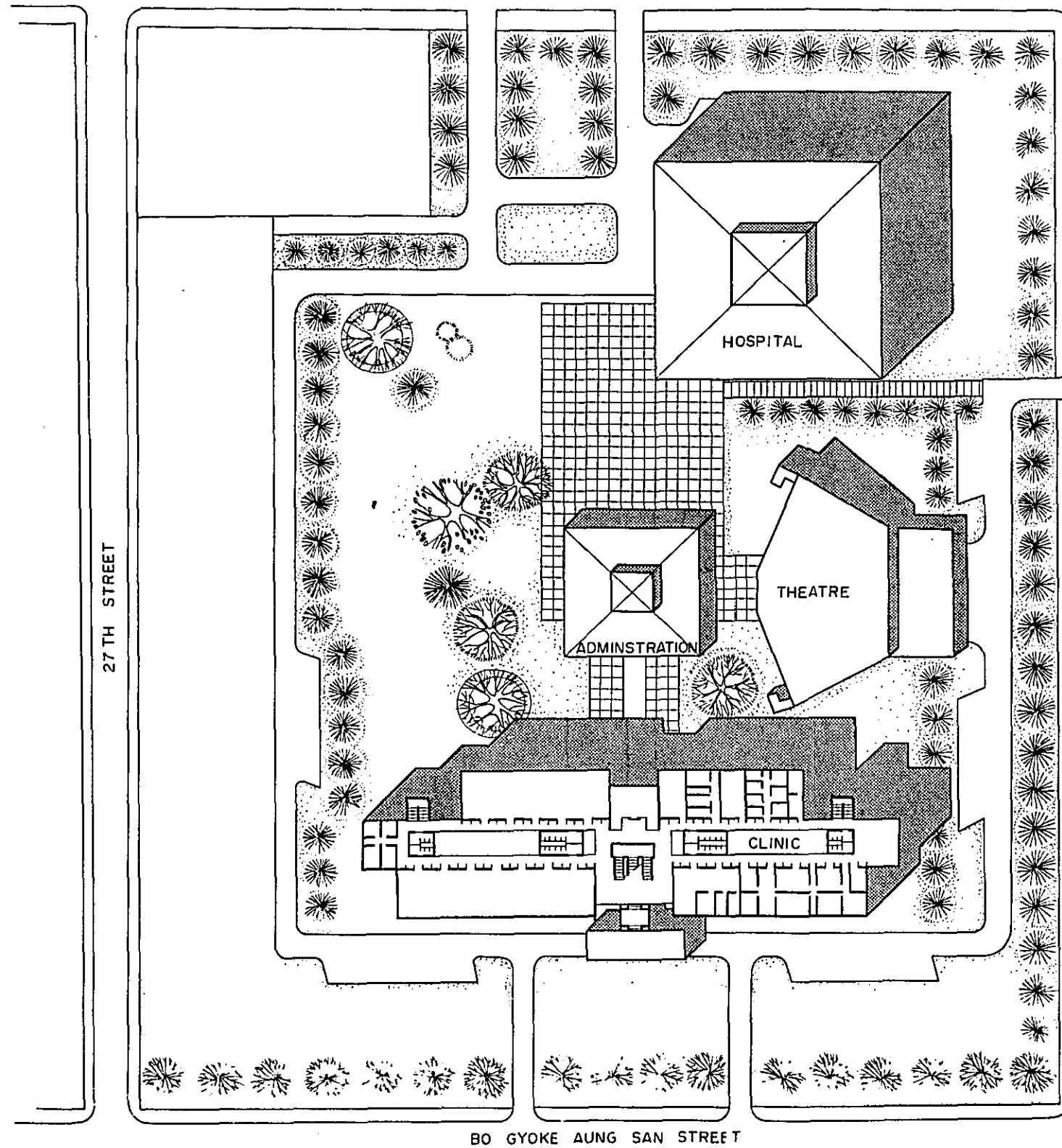
日本人専門家が指導をする部屋



FIRST FLOOR

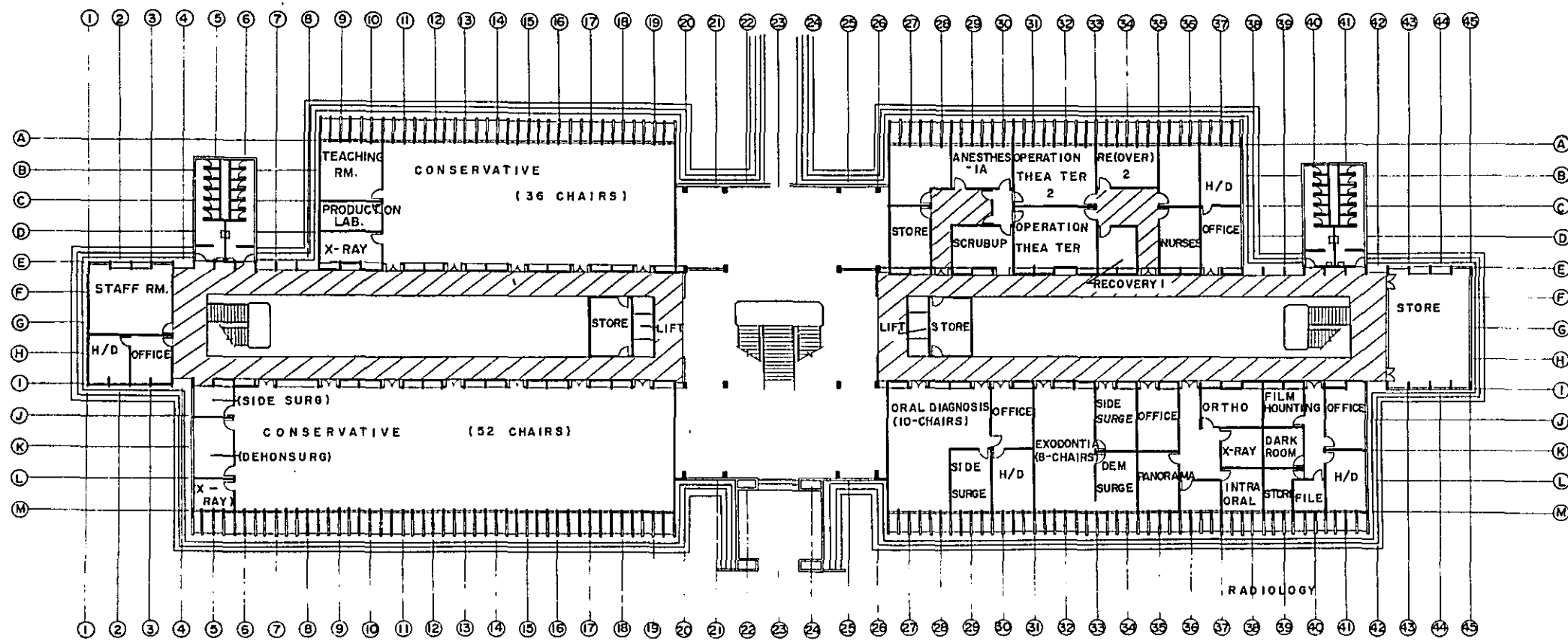
SCALE $i = \frac{1}{4}$

新歯科大学 (INSTITUTE OF DENTAL MEDICINE AND HOSPITAL) の基本設計図

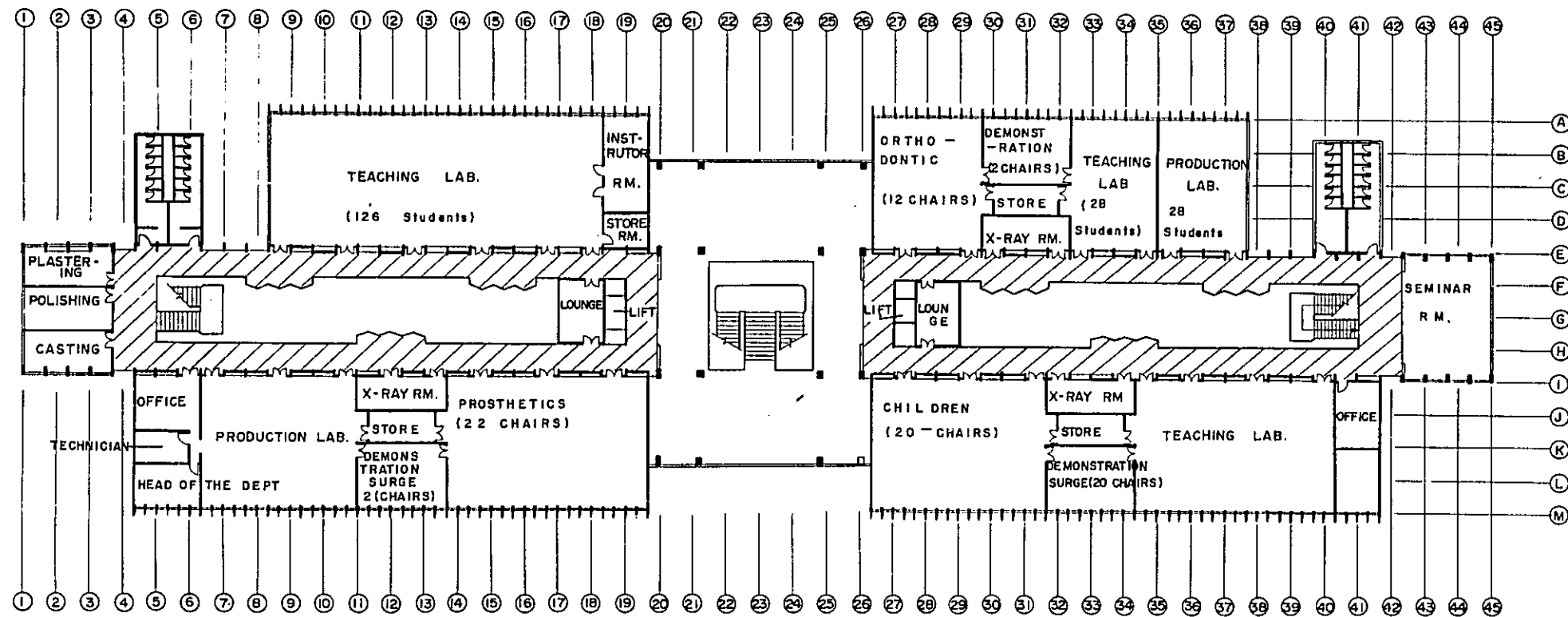


(敷地計画)

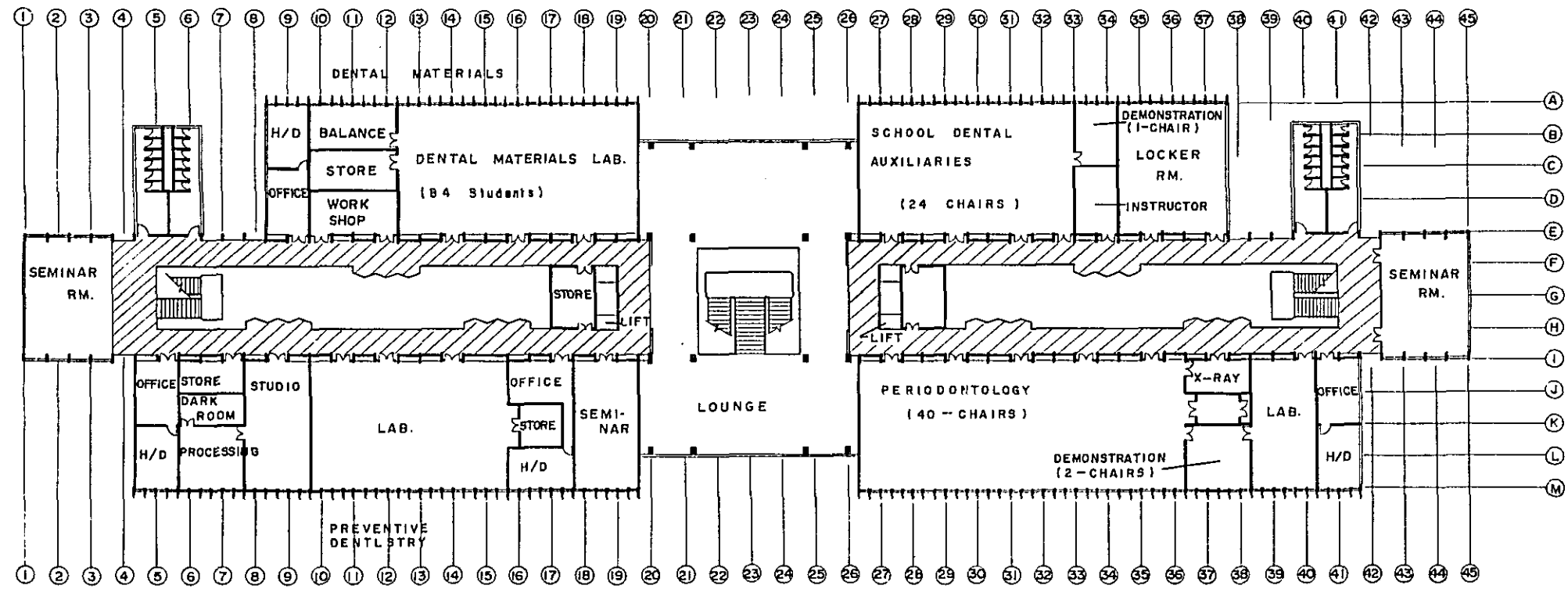
(ビルコ CONSTRUCTION CORPORATION 作成)



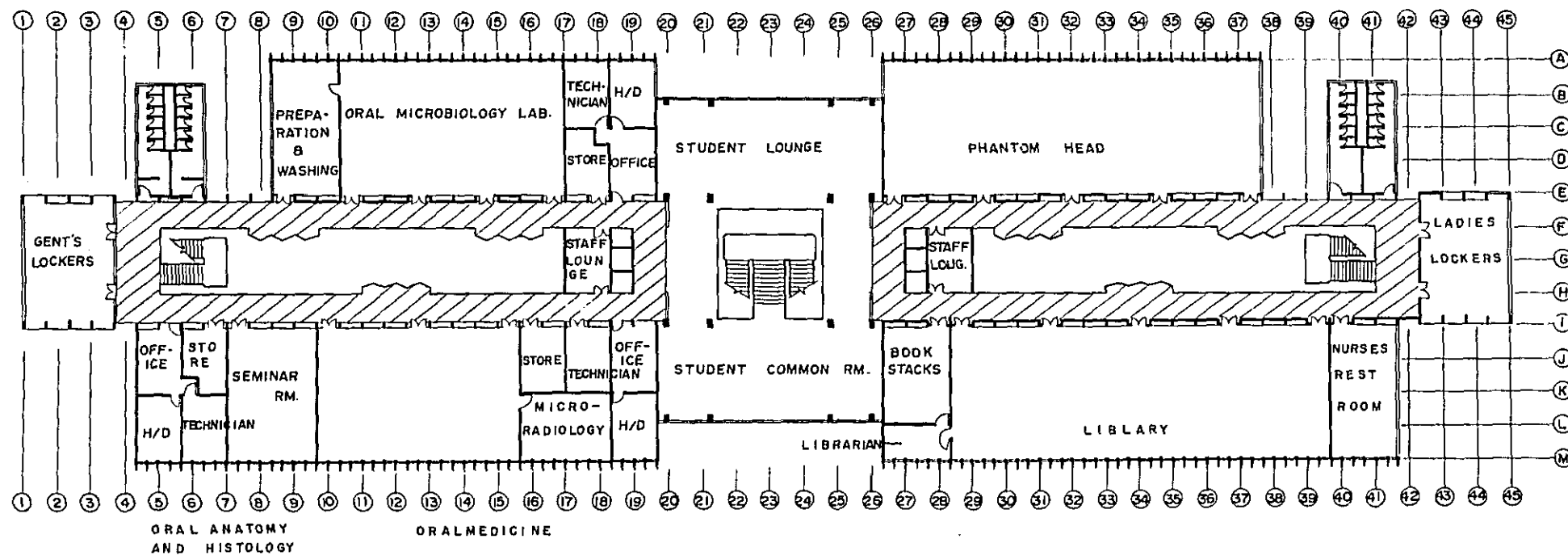
大学の1階
(CLINIC)



2階



3 階



4 階

